

田 井 中 遺 跡

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告46

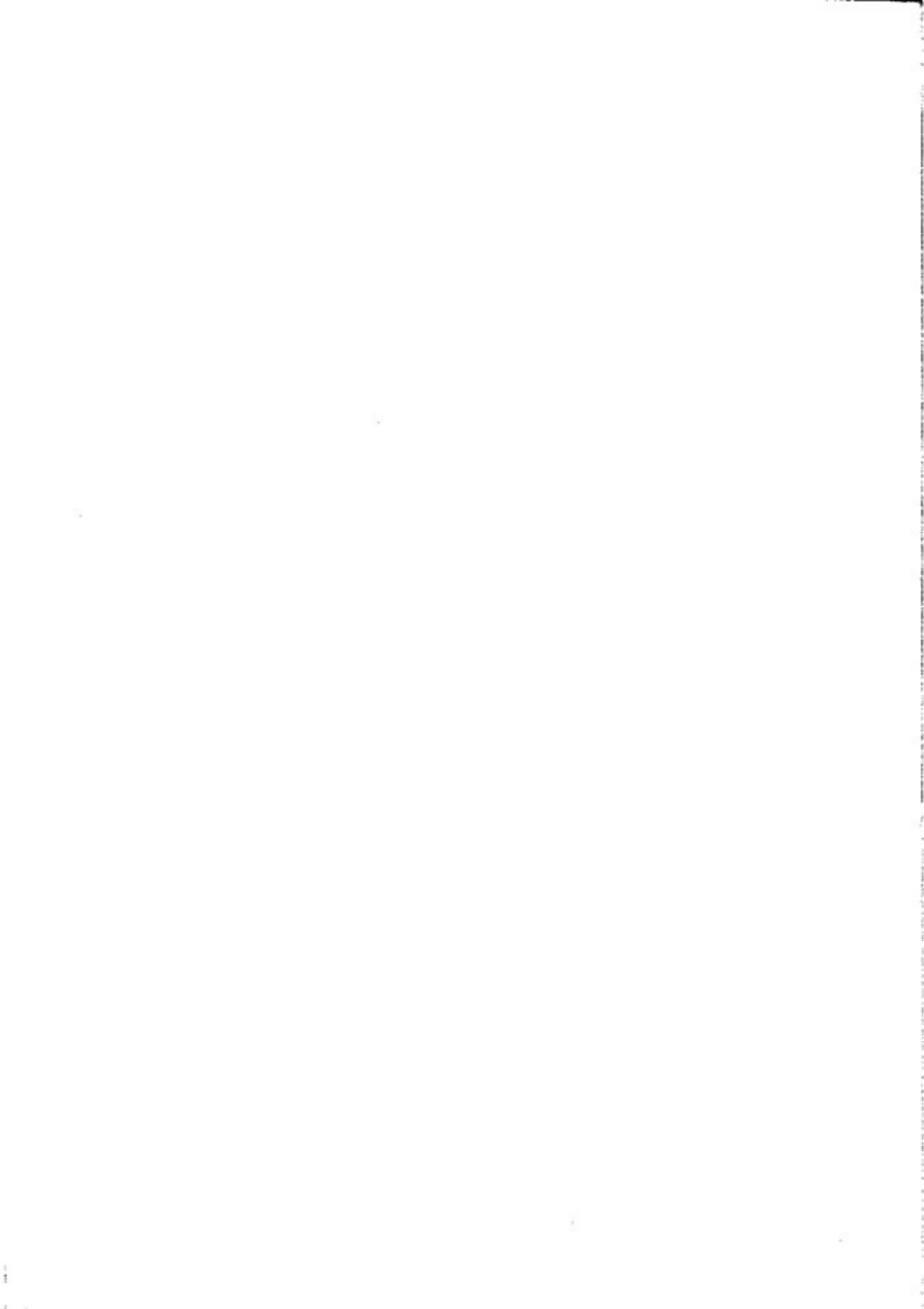
I 田井中遺跡 (第5次調査)

II 田井中遺跡 (第7次調査)

III 田井中遺跡 (第10次調査)

1995年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会



| 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告46 正誤表 | | |
|--------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|
| ページ | 誤 | 正 |
| 40 第2図 基本層序図 | 第10層・・・上面の 標高はT.P.+9.3~ 9.4mである。 | 第10層・・・上面の 標高はT.P.+9.1~ 9.3mである。 |

田 井 中 遺 跡

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告46

- I 田井中遺跡 (第5次調査)
- II 田井中遺跡 (第7次調査)
- III 田井中遺跡 (第10次調査)

1995年 3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市の位置する河内平野は、古来より幾度となく旧大和川の氾濫を受けながら、その自然環境のもと、豊かな土壤に育まれてきた地域であります。この平野部には古来より先人達が生活するうえで築いてきた貴重な文化遺産が数多く埋蔵されております。また同市の東部に連なる信貴生駒山系の西麓部にも平野部と同様、数多くの文化遺産が埋蔵されています。

近年八尾市では、大小様々な分野での都市開発事業が進められるようになり、21世紀に向かって近代都市へと大きく変貌しようとしております。しかし、こうした都市開発は便利さや豊かさをしてくれる反面、先人達の数々の足跡である文化遺産を破壊する危険な面を持っています。確かに一部の遺跡では整備され保存・保護されているとはいえ、そのほとんどは痕跡を止めず消滅していきます。そこで、私共では「開発の波」に呑まれ、失われていく貴重な文化遺産を後世の人々へ伝承することが責務であると認識し、破壊される遺跡については発掘調査を実施して記録保存に努めております。

今回、昭和62年度に実施しました田井中遺跡（第5次）、昭和63年度に実施しました田井中遺跡（第7次）、平成4年度に実施しました田井中遺跡（第10次）の調査および整理が完了しましたので報告書を刊行する運びとなりました。本書が学術研究及び本市の地域史の資料として、さらに文化財保護への啓発普及に活用して頂ければ幸いです。

末筆となりましたが、調査においてご協力いただきました関係各位の皆様方に深くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

1995年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事长 木山丈司

序

1. 本書は財團法人八尾市文化財調査研究会が昭和62年度、昭和63年度、平成4年度に実施した発掘調査成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現場終了後に着手し、平成6年度をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記のとおりである。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1(昭和61年8月)、八尾市教育委員会発行の「八尾市埋蔵文化財分布図」(平成5年10月1日改訂)をもとに作成した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
1. 本書で用いた方位は磁北及び国上座標の真北を示している。
1. 遺構は下記の略号で表した。
溝 - S D 井戸 - S E 土坑 - S K 小穴 - S P 自然河川 - N R
1. 遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。
弥生土器・土師器・瓦器・石頬・白、須恵器・陶磁器・黒、木製品・斜線。
1. 各調査に際して発掘調査、写真、実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。
1. 本書作成にあたり大阪府教育委員会文化財保護課 亀島重則技師、財團法人大阪府文化財協会 林口佐子技師、八尾市立曙川小学校教諭 奥田尚氏にご指導および御教示いただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

目 次

はしがき

序

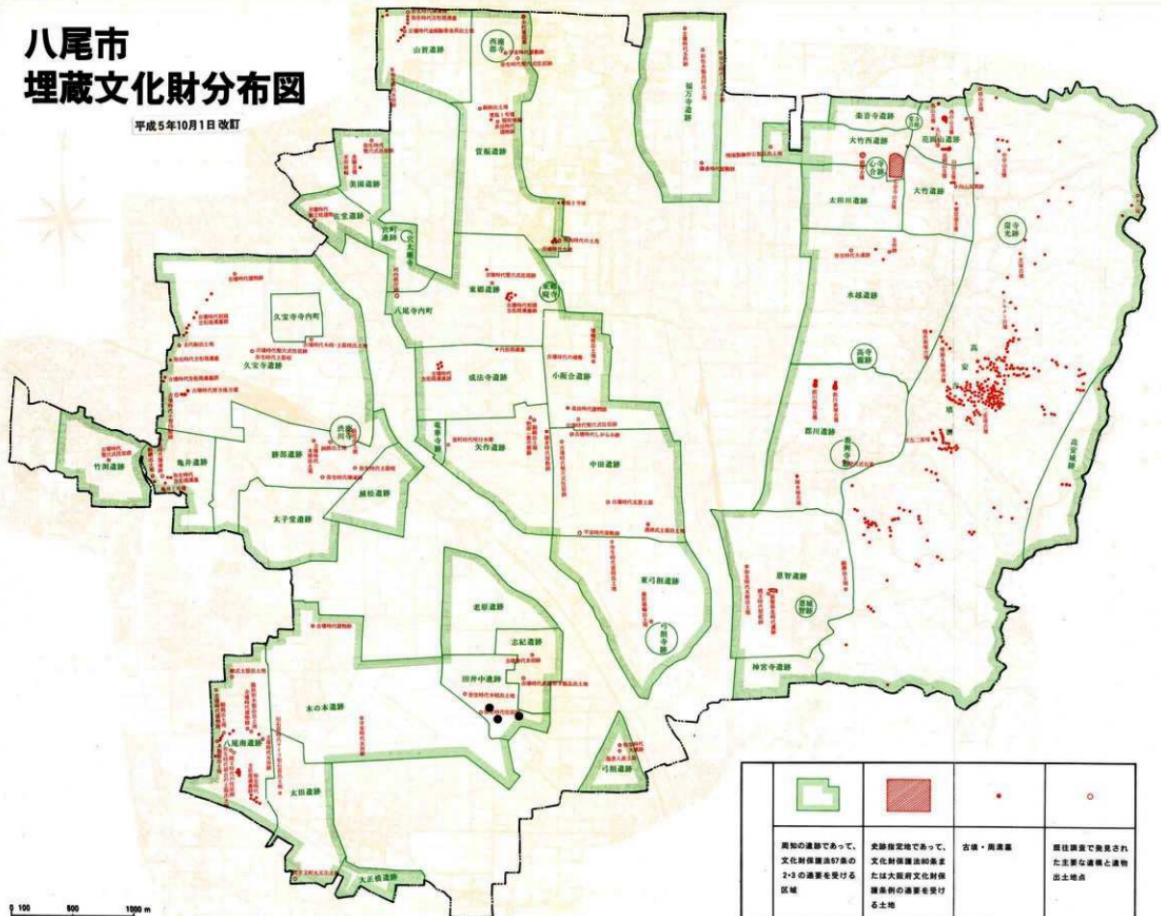
目次

八尾市埋蔵文化財分布図

| | |
|--------------------------|----|
| I 田井中遺跡 (第5次調査) | 1 |
| II 田井中遺跡 (第7次調査) | 27 |
| III 田井中遺跡 (第10次調査) | 37 |
| 報告書抄録 | |

八尾市 埋蔵文化財分布図

平成5年10月1日改訂



I 田井中遺跡第5次調査(TN87-5)

例　　言

1. 本書は八尾市空港1丁目81で実施した通信局建設事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する田井中遺跡の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第14号 昭和62年4月15日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が防衛庁から委託を受けて実施したものである。
1. 本調査は財団法人八尾市文化財調査研究会が田井中遺跡内で実施した第5次調査（遺跡略号 TN87-5）である。
1. 現地調査は、昭和62年10月19日から同年12月5日にかけて西村公助を担当者として実施した。調査面積は約216m²を測る。調査においては岡田聖一・川口ひろみ・武田正泰の参加があった。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成7年3月に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測－西村（公）・西村和子・石原好恵、図面レイアウト・トレース－西村（公）・西村（和）・石原・中西明美、遺物写真撮影－西村（公）が行なった。
1. 本書の執筆および編集は西村（公）が行なった。

本文目次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 調査に至る経過..... | 1 |
| 第2章 地理・歴史的環境..... | 3 |
| 第3章 調査概要..... | 5 |
| 第1節 調査の方法と経過..... | 5 |
| 第2節 基本層序..... | 5 |
| 第3節 検出遺構・出土遺物..... | 9 |
| 1) 第1区..... | 9 |
| 2) 第2区..... | 18 |
| 第4章 出土遺物観察表..... | 19 |
| 第5章 まとめ..... | 25 |

挿図目次

| | |
|-----------------------------------------------|----|
| 第1図 調査地周辺図 | 2 |
| 第2図 調査区設定図 | 4 |
| 第3図 基本層序図 | 6 |
| 第4図 第1区 検出遺構平面図 | 8 |
| 第5図 SK-1(1) SK-2(2) SK-5(3) SK-6(4~7) 出土遺物実測図 | 9 |
| 第6図 SD-1(8)出土遺物実測図 | 10 |
| 第7図 SD-2(9~13)出土遺物実測図 | 11 |
| 第8図 SK-8 平断面図 | 12 |
| 第9図 SK-8(14~23)出土遺物実測図 | 13 |
| 第10図 SK-8(24~32)出土遺物実測図 | 14 |
| 第11図 第5層(33)出土遺物実測図 | 15 |
| 第12図 第10層(34~53・60)出土遺物実測図 | 16 |
| 第13図 第10層(54~59)出土遺物実測図 | 17 |
| 第14図 第2区 第10層(61~68)出土遺物実測図 | 18 |

表 目 次

| | |
|--------------------|---|
| 第1表 田井中遺跡 発掘調査 一覧表 | 2 |
| 第2表 志紀遺跡 発掘調査 一覧表 | 2 |

写真目次

| | |
|----------------|---|
| 写真1 調査地周辺(東から) | 1 |
|----------------|---|

図版目次

| | |
|-----|----------------------|
| 図版一 | 調査地周辺(東から) |
| | 第1区 調査状況(東から) |
| 図版二 | 第1区 全景(東から) |
| | 第1区 SK-1 遺物出土状況(西から) |

- 図版三 第1区 SK-8 遺物出土状況(北から)
第2区 全景(南から)
- 図版四 第1区 SK-1(1) SK-6(6・7) SD-2(11~13)出土遺物
- 図版五 第1区 SK-8(14~20・24・25)出土遺物
- 図版六 第1区 SK-8(26~29・31)出土遺物
- 図版七 第1区 第5層(33) 第10層(34~39・44・50)出土遺物
- 図版八 第1区 第10層(49・51・52)出土遺物
- 図版九 第1区 第10層(53~56)出土遺物
- 図版一〇 第1区 第10層(57・59・60)出土遺物

第1章 調査に至る経過

田井中遺跡は、大阪府八尾市の南部に位置しており、現在の行政区画では田井中1～2・4丁目、志紀町西2・3丁目、空港1丁目一帯の東西約1.0km、南北0.6kmの範囲にある。

当遺跡発見の契機は、昭和50年度に陸上自衛隊八尾駐屯地内の下水道工事掘削の際、弥生時代前期の土器が出土したことによる。しかしその工事での遭構埋没深度、出土遺物状況等の詳細は不明であった。その後、同駐屯地内を含めた当遺跡内では、発掘調査は実施されておらず遺跡の詳細は不明のままであった。

昭和57年度に上記駐屯地内において施設建設の工事が行なわれ、それに伴う発掘調査を実施した結果、弥生時代と推定される遭構と弥生時代～古墳時代に至る遺物を濃密に含んでいる層を検出した(①)。この調査以降、同遺跡内の南西部地域一帯では、第1図で示した通り、平成6年度までに当調査研究会で7件(②～⑧)、大阪府教育委員会文化財保護課・(財)大阪府埋蔵文化財協会で5件(I～V)【第1図、第1・2表参照】の調査を実施しており、弥生時代前期から中世に至る遭構の検出および遺物の出土があり、特に弥生時代全般を通し、当遺跡内南西部地域で集落を営んでいることが明らかになった。

このような情勢下、昭和62年度に大阪防衛施設局から八尾市教育委員会文化財課に、陸上自衛隊八尾駐屯地内において通信局舎を建設する旨の通知があった。同文化財課では建設予定地が田井中遺跡の遺跡範囲内に存在しており、昭和57年度の調査(①)や昭和59年度の調査(②)で弥生時代前期から古墳時代中期の遭構を検出していることから、当建設予定地にも埋蔵文化財があると予想され、発掘調査が必要であると判断した。同文化財課は事業者に建設工事によって地下に埋没している文化財の破壊が予想される部分を対象に発掘調査が必要である旨を通知し、発掘調査を実施することが両者で合意された。上記のことより当調査研究会へ全面発掘調査が依頼されたものである。

今回の調査地(③)は、昭和57年度に当調査研究会が実施した第1次調査地の南東約30mに位置し、田井中遺跡推定範囲内の中央より南部にあたる。調査は通信局舎建設に伴って実施したもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した第5次調査(遺跡略号 TN87-5)である。



写真1 調査地周辺(東から)

財団法人 八尾市文化財調査研究会 調査地

| 地図番号 | 調査機関 | 次 | 調査年度 | 略 号 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | 住 所 |
|------|------|----|--------|---------|-----------------|-------|-----------|----------|
| ① | 研究会 | 1 | 昭和57年度 | TN82-1 | 3570816-0826 | 34 | 自南隊 施設建設 | 田井中無番地 |
| ② | 研究会 | 2 | 昭和59年度 | TN84-2 | 3561015-1026 | 155 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目31 |
| ③ | 研究会 | 5 | 昭和62年度 | TN87-5 | 3562019-1205 | 216 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目81 |
| ④ | 研究会 | 7 | 昭和63年度 | TN88-7 | 3563030-0616 | 25 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目81 |
| ⑤ | 研究会 | 10 | 平成4年度 | TN92-10 | HO40928-1222 | 1,003 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目18 |
| ⑥ | 研究会 | 11 | 平成5年度 | TN93-11 | HO50411-HE60304 | 1,863 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目81 |
| ⑦ | 研究会 | 12 | 平成5年度 | TN93-12 | HO50802-1008 | 600 | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目81 |
| ⑧ | 研究会 | 13 | 平成5年度 | TN93-13 | HO60201-0210 | 25 | 公共下水道90工区 | 田井中1丁目地内 |

研究会=財団法人 八尾市文化財調査研究会

大阪府教育委員会および財団法人 大阪府埋蔵文化財協会 調査地

| 地図番号 | 調査機関 | 調 条 年 度 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | 住 所 |
|------|-------|---------|-------------|------|-------------|-------|
| I | 府教委 | 平成元年度 | HO1 | | 試掘調査 | 空港1丁目 |
| II | 府教委 | 平成2年度 | HO212-HO303 | | 特定期保水池整備工事 | 空港1丁目 |
| III | 府教委 | 平成3年度 | HO310-HO403 | | 八尾市北東排水整備工事 | 空港1丁目 |
| IV | 府教委 | 平成4年度 | HO404-HO503 | | 特定期保水池整備工事 | 空港1丁目 |
| V | (財)大阪 | 平成6年度 | HO606-08 | | 自南隊 施設建設 | 空港1丁目 |

府教委=大阪府教育委員会

(財)大阪=財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

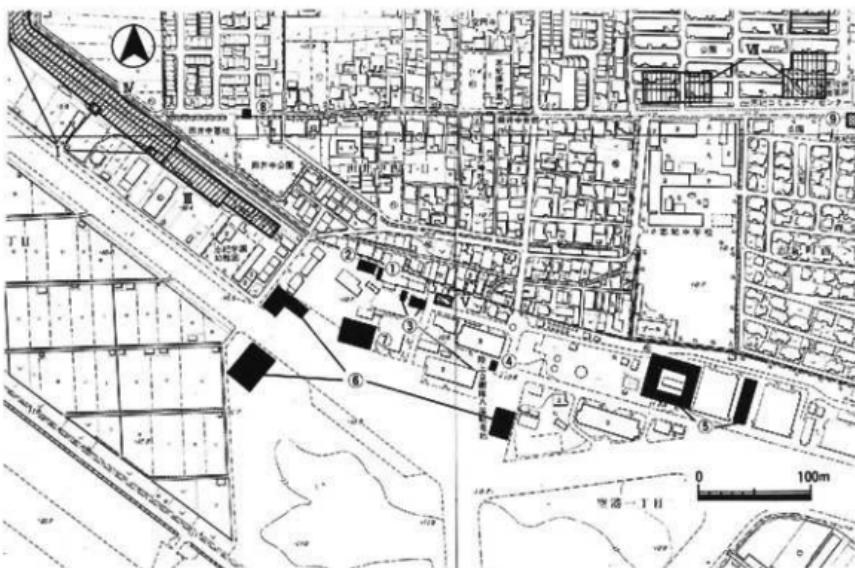
第1表 田井中遺跡 発掘調査 一覧表

大阪府教育委員会および財団法人 大阪府埋蔵文化財協会 調査地

| 地図番号 | 調査機関 | 調 条 年 度 | 略 号 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | 住 所 | |
|------|------|---------|-------|----------|--------------|------|-----------|-----------|
| ⑨ | 研究会 | 1 | 平成5年度 | SIK93-01 | HO51120-1227 | 52 | 公共下水道21工区 | 志紀町西3丁目地内 |

研究会=財団法人 八尾市文化財調査研究会

第2表 志紀遺跡 発掘調査 一覧表



第1図 調査地周辺図

第2章 地理 歴史的環境

当遺跡は、現在の行政区画では田井中1～2・4丁目、志紀町西2・3丁目、空港1丁目一帯にあたる。当遺跡の周辺には、北に鎌倉時代の集落を検出している老原遺跡、北東に弥生時代～中世にかけて水田遺構を検出している志紀遺跡、西に平安時代後期の集落を検出している木の本遺跡、南東に弥生時代後期と奈良時代の集落を検出している弓削遺跡が位置している。

当遺跡は地理的には、東を牛駒山地、西を上可台地、北を淀川、南を羽曳野丘陵によって囲まれている東西約10km、南北約20kmの沖積低地である河内平野の南部地域に存在している。

当遺跡内では、昭和57年度から平成5年度までに、当調査研究会が13次、大阪府教育委員会が4次にわたる発掘調査を実施している。これらの調査の結果から、当遺跡内で集落が営まれ始めるのは、縄文時代晚期頃ということが判明している。また弥生時代前期中頃の時期以降、中期を経て弥生時代後期までの弥生時代全般にわたって同駐屯地内で集落が営まれていることが明らかになっている(①～⑦・V)。

同駐屯地内の調査では、古墳時代前期の「庄内式期」と「布留式期」の遺構や中期の遺構を検出しており、集落が営まれていると推定される(②・④・⑥)。また、奈良時代以降近世に至までの遺物も少量ながら出土していることから、近隣に集落が存在していると推定される。

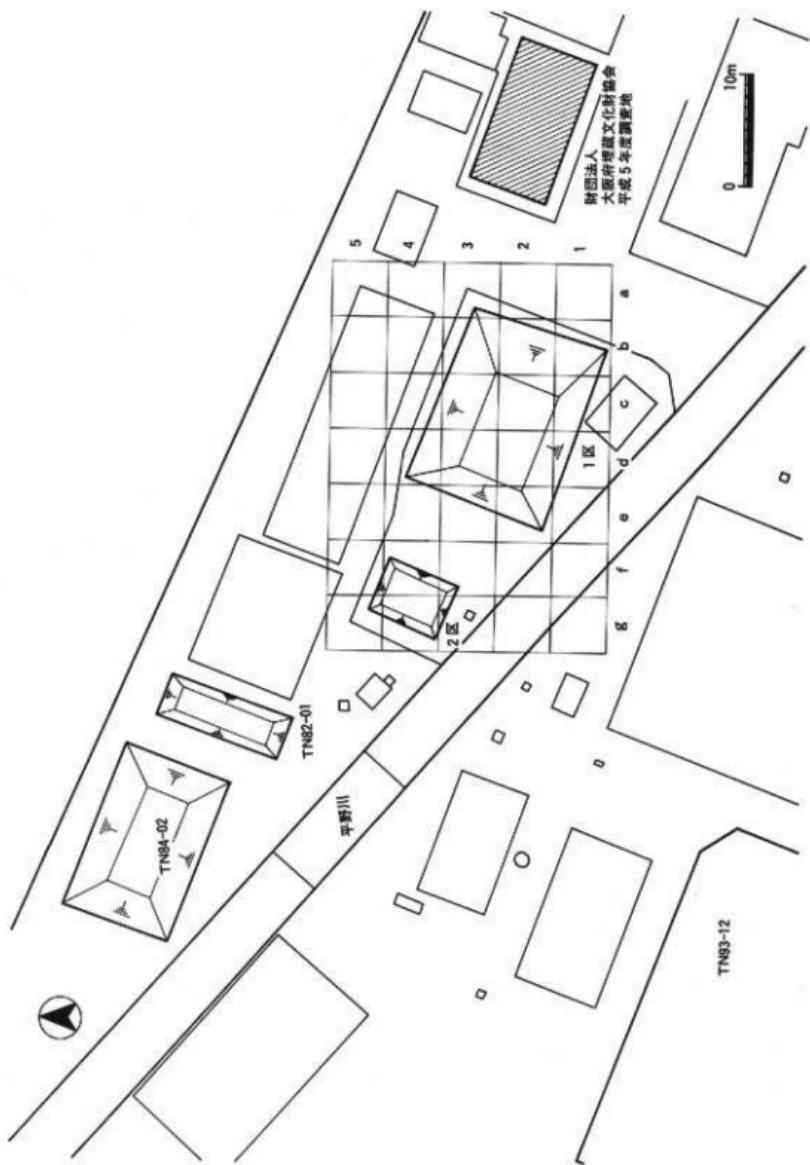
当遺跡の北東側に近隣する志紀遺跡(⑨・VI・VII)では、弥生時代前期から鎌倉時代の水田跡が連続と統いて検出されることや、西に近隣しているの木の本遺跡「八尾空港内発掘調査の第6調査区」では、平安時代後期の集落を検出している。

当遺跡内の今回報告する調査地では、平安時代以降は条里の水田が広がっていたと推定され、同時期の集落は存在していないことが明らかになっている。

参考文献

- ・八尾市役所 「八尾市史(前近代) 本文編 昭和63年10月27日
- ・財団法人 八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度」「Ⅱ 田井中遺跡」1989年3月 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告17
- ・財団法人 八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告」Ⅰ 田井中遺跡(志紀遺跡) 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告40
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅰ」 1991年3月
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅱ」 1992年3月
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅲ」 1993年3月
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅳ」 1994年3月

()内の数字は第1回の調査地点番号である。第1回および第1・2表参照



第2図 調査区設定図

第3章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

調査に際しては、当調査研究会が実施した昭和57年度調査の成果をもとに、現地表下2.3mまでに存在する盛土および田耕土を機械で掘削し、以下約0.4mは人力掘削を行ない、1面の調査を実施した。調査の結果、弥生時代前期から弥生時代後期の遺構の検出および弥生時代前期から平安時代にかけての遺物の出土があった。調査地での地区割は、調査地の南東側に基準点を置き、この基準点から西へ35m、北へ25mにわたって設定した。一区画の単位は5m四方で、基準点から東西方向はアルファベット（東からa～g）、南北方向は算用数字（南から1～5）で示した。地区別の表示は、一区画の南東隅に交差する線を用い、1a～5g区と呼称した。

通信局舎の建設予定地を第1区（東西16m×南北12m、面積192m²）、予備電源室建設予定地を第2区（東西4m×南北6m、面積24m²）とし、調査は第1区から先に行なった。

調査においては、八尾市教育委員会の指示書に基づき現地表下2.3mまでの土を機械で掘削し、以下の各層は人力による掘削を行ない遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、第1区では弥生時代前期から古墳時代中期に至る遺物を含む層（第10層）を確認し、この層直下（地表下約2.7m）の標高T.P.+8.5mの第11層上面で弥生時代前期の土坑1基、弥生時代中期の土坑6基と溝2条、弥生時代後期の土坑1基、時期不明の土坑3基を検出した。また、第2区は、機械掘削終了後壁面が崩壊するおそれがあり、人力掘削を行なうことは危険であると判断し、面的な調査を断念した。そのため第1区の遺構検出面（地表下約2.7m）まで機械により掘削し、第10層内から出土した遺物を採集した。

第2節 基本層序

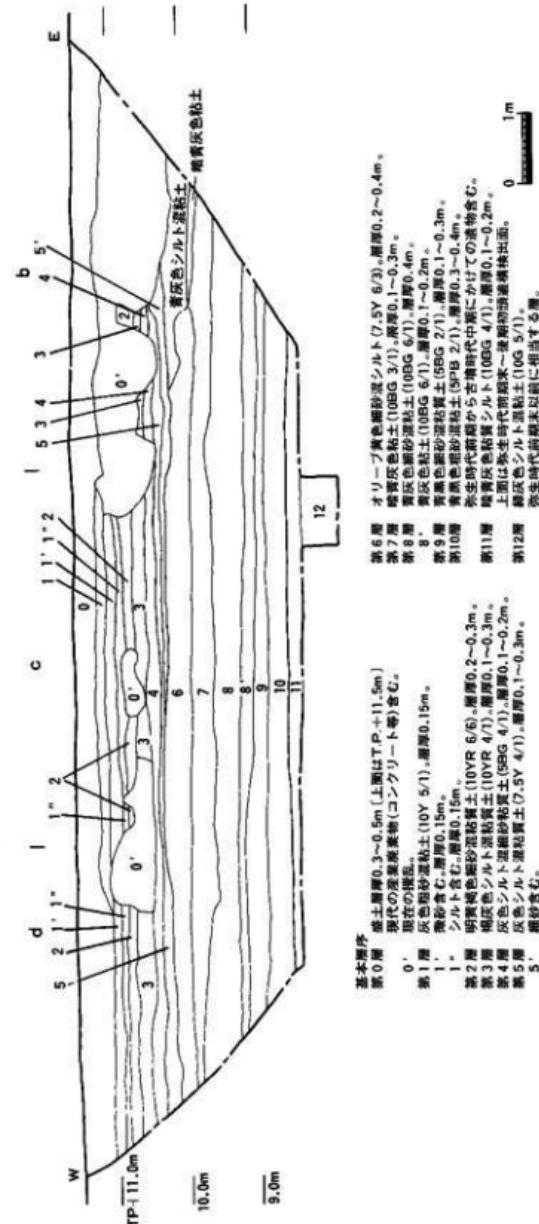
今回の調査区では、弥生時代前期以前に相当する層（第12層）から現代（第0層）までの堆積状況を確認した。現代及び近代の工事掘削により本来の堆積状況が壊されている部分が数箇所あったが、全面にわたり比較的良好な堆積状況が確認できた。確認した堆積土層のうち面的な調査を行なったのは、第11層上面【第1面】（弥生時代前期～後期遺構検出面）である。（第3図参照）

第0層 盛土。層厚0.3～0.5m [上面はT.P.+11.5m]。

現代の産業廃棄物（コンクリート等）含む。

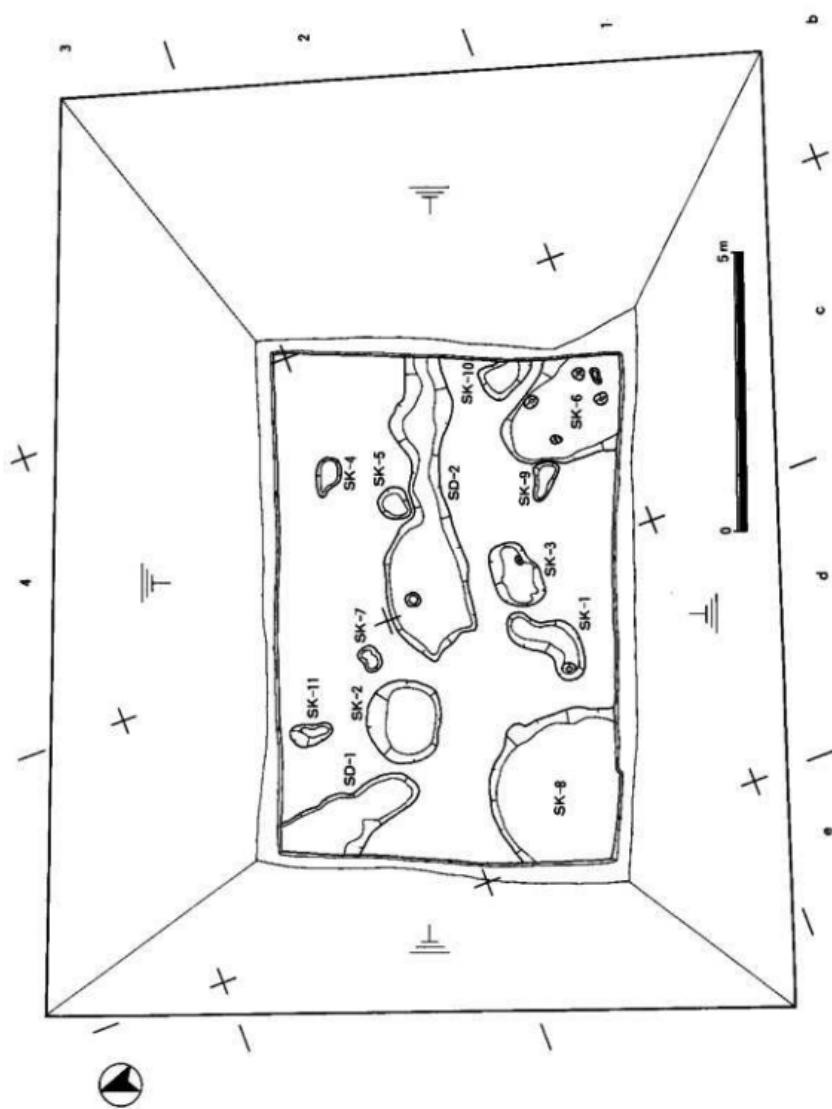
0' 現代に掘りかえされた擾乱。

第1層 灰色粗砂混粘土(10Y 5/1)。層厚0.15m。



第3図 基本層序圖

- 1' 微砂含む。層厚0.15m。
- 1" シルト含む。層厚0.15m。
- 第2層 明黄褐色細砂混粘質土(10YR 6/6)。層厚0.2~0.3m。
- 第3層 暗灰色シルト混粘質土(10YR 4/1)。層厚0.1~0.3m。
- 第4層 灰色シルト混細砂粘質土(5BG 4/1)。層厚0.1~0.2m。
- 第5層 灰色シルト混粘質土(7.5Y 4/1)。層厚0.1~0.3m。
- 5' 細砂含む。
- 第6層 オリーブ黄色細砂混シルト(7.5Y 6/3)。層厚0.2~0.4m。
- 第7層 暗青灰色粘土(10BG 3/1)。層厚0.1~0.3m。
- 第8層 青灰色細砂混粘土(10BG 6/1)。層厚0.4m。
- 8' 青灰色粘土(10BG 6/1)。層厚0.1~0.2m。
- 第9層 青黒色細砂混粘質土(5BG 2/1)。層厚0.1~0.3m。
- 第10層 青黒色粗砂混粘土(5PB 2/1)。層厚0.3~0.4m。
- 弥生時代前期から古墳時代中期にかけての遺物含む。
- 第11層 暗青灰色粘質シルト(10BG 4/1)。層厚0.1~0.2m。
上面は弥生時代前期末~後期初頭遺構検出面。
- 第12層 緑灰色シルト混粘土(10G 5/1)。層厚0.5m以上
弥生時代前期末以前に相当する層。



第4図 第1区 検出構造平面図

第3節 検出遺構・出土遺物

1) 第1区

調査の結果、第1区では標高T.P.+8.5m付近の第11層上面で弥生時代前期の土坑1基（SK-1）、弥生時代中期の土坑6基（SK-2～SK-7）・溝2条（SD-1・SD-2）、弥生時代後期の土坑1基（SK-8）、時期不明の土坑3基（SK-9～SK-11）を検出した。

第5層内からは平安時代の遺物が、第10層内からは弥生時代前期から古墳時代中期に至る遺物が出土した。第10層からはコンテナ箱10箱程度出土したが、そのほとんどが破片であった。

弥生時代前期の遺構

土坑（SK）

SK-1

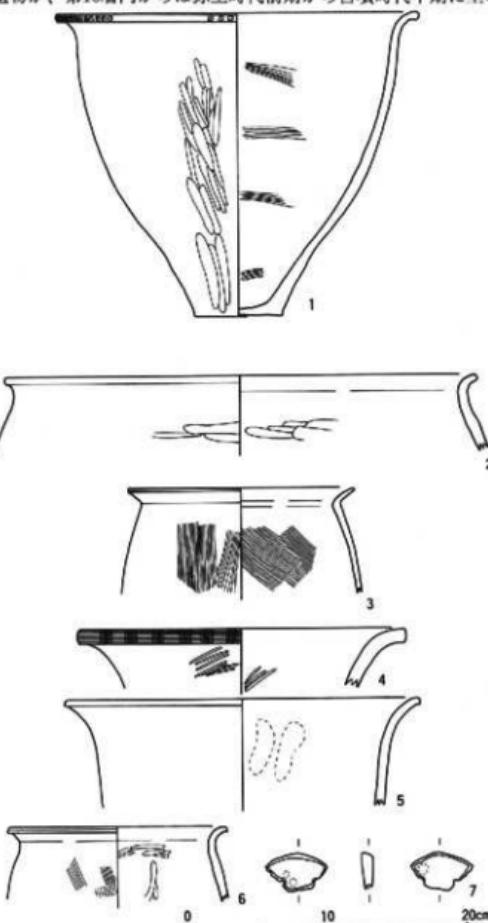
2d地区で検出した土坑で、上面の形状は不定形を呈す。東西幅1.6m、南北幅0.6m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は暗灰色細砂混粘土（N 3/）である。土坑内からは弥生時代前期の甕（1）が出土した。（1）は、全体外面全体にススが付着しており、煮炊きに使用した痕跡が残っていた。

弥生時代中期の遺構

土坑（SK）

SK-2

2・3d地区で検出した土坑で、上面の形状は円形を呈す。径1.4m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土



第5図 SK-1(1) SK-2(2) SK-5(3) SK-6(4～7)
出土遺物実測図

(N 3/)、青灰色粘土(10BG 5/1)である。土坑内からは弥生時代中期の甕(2)が出土した。

SK-3

2 c-d地区で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈す。東西幅1.2m、南北幅0.8m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土(N 3/)、青灰色粘土(10BG 5/1)である。土坑内からは壺、甕等の破片が少量出土した。

SK-4

2 c-d地区で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈す。東西幅0.4m、南北幅0.7m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。土坑内からは壺の破片が出土した。

SK-5

2 c地区で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈す。東西幅0.6m、南北幅0.55m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。土坑内からは弥生時代中期の甕(3)等の破片が少量出土した。

SK-6

1-2 c地区で検出した土坑であるが、東と南は調査区外に至る。検出部の上面の形状は半円形を呈す。検出部の東西幅1.7m、南北幅2.0m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土(N 3/)、青灰色シルト混粘土(10BG 5/1)、青灰色粘土(10BG 5/1)である。土坑内からは弥生時代中期の壺(4)、甕(5・6)、土製有孔円板〔蓋〕(7)が出土した。

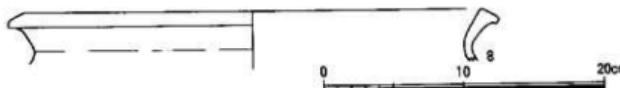
SK-7

3 d地区で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈す。検出部の東西幅0.45m、南北幅0.3m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。土坑内からは弥生時代中期の甕等の破片が少量出土した。

溝(SD)

SD-1

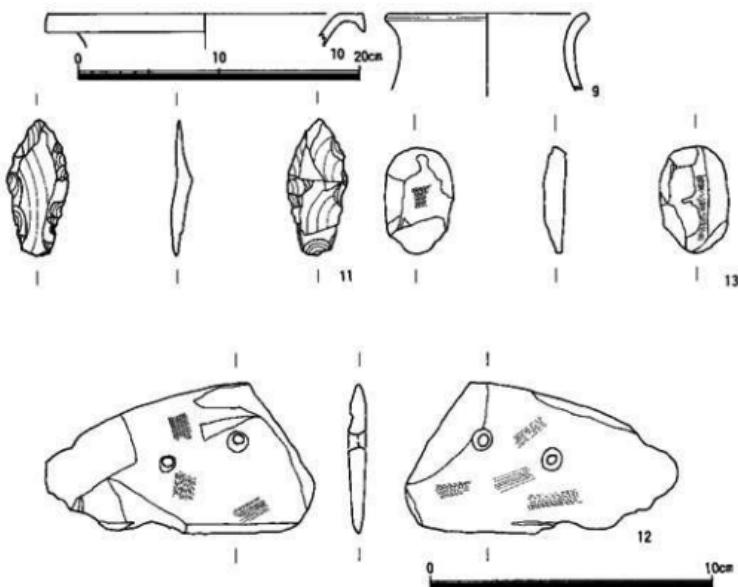
3 d地区で検出した。南北方向に伸びるが北側は調査区外へ至る。検出長2.5m、幅0.7~1.15m、深さ0.35mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。土坑内からは弥生時代中期の甕(8)が出土した。



第6図 SD-1(8)出土遺物実測図

SD-2

2 c・d地区で検出した。南東から北西方向に伸びるが南東部は調査区外へ至る。検出長5.5m、幅0.45~1.45m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上から、暗灰色シルト混粘土(N 3/)、黒色粘土(N 2/)である。暗灰色シルト混粘土層内からは弥生時代中期の壺(9・10)、石錐(11)、石包丁(12)、磨製石器(13)が出土した。



第7図 SD-2(9~13)出土遺物実測図

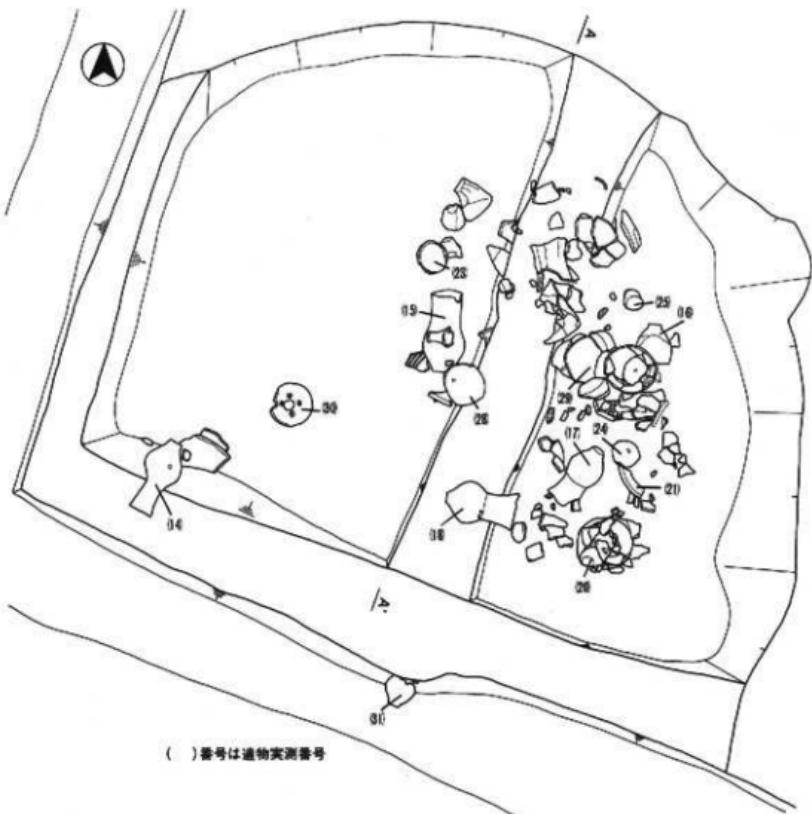
弥生時代後期の造構

土坑(SK)

SK-8

2 d・e地区で検出した土坑である。西と南は調査区外に至る。検出部の平面形状は半円形を呈す。検出部の東西幅2.4m、南北幅2.0m、深さ0.5mを測る。内部堆積土は上から、①暗灰色シルト混粘土(N 3/)、②青灰色粘土(10BG 5/1)、③青灰色シルト混粘土(10BG 5/1)、④暗青灰色シルト(10BG 3/1)、⑤黒色粘土(N 2/)である。①層内からは、弥生時代後期の長頸壺(14~19)、短頸壺(20)、壺(21~23)、小型鉢(24・25)、有孔鉢(26~28)、高杯(29・30)、壺(31)、土錐(32)等が出土した。

長頸壺(14~19)は、外傾する口縁部で、端部は丸く終るものと、尖るものがある。体部は

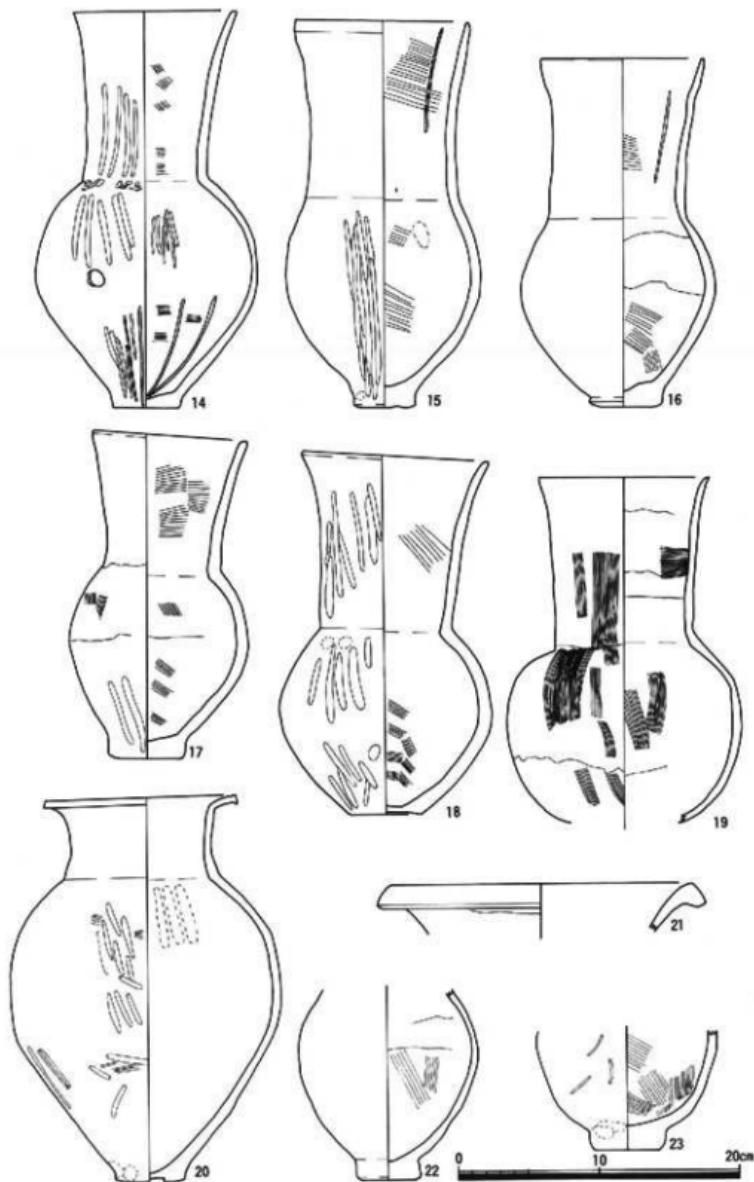


()番号は遺物実測番号

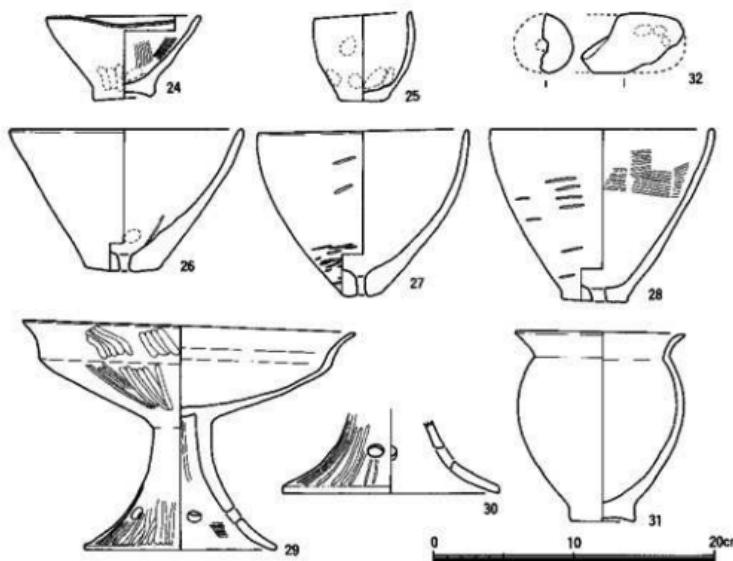
- ① 喙灰色シルト混粘土(N 3/1)
- ② 青灰色粘土(10BG 5/1)
- ③ 青灰色シルト混粘土(10BG 5/1)
- ④ 喙青灰色シルト(10BG 3/1)
- ⑤ 黒色粘土(N 2/1)



第8図 SK-8 平断面図



第9図 SK-8(14~23)出土遺物実測図



第10図 SK-8(24~32)出土遺物実測図

球形で、突出する底部をもつ。(14)には、ヘラによる記号が体部内面と外面上にある。また、(15・16)には、ヘラによる記号が頸部内面にある。短頸壺(20)は口縁端部を肥厚させ頸部は直立する。肩の張った体部をもつ。小型鉢(24)の口縁部は注ぎ口をもつ。小型鉢(25)は楕円形の器形である。有孔鉢(26~28)は深鉢形を呈し、(27・28)は外面全体にタタキを施す。高杯(29)は杯と脚部の接合に円板充填法を用いており、後期の中でも古い様相をもつものである。壺(31)は、体部内外面ともにナデて成形している。

時期不明の遺構

土坑 (SK)

SK-9

2 c地区で検出した土坑で、上面の形状は不定形を呈す。東西幅0.4m、南北幅0.7m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。内部からの出土遺物はなかった。

SK-10

2 c地区で検出した土坑であるが、東は調査区外に至る。検出部の東西幅0.65m、南北幅0.8m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。内部からの出土遺物

はなかった。

SK-11

3 d 地区で検出した土坑で、上面の形状は椭円形を呈す。東西幅0.4m、南北幅0.75m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗灰色シルト混粘土(N 3/)である。内部からの出土遺物はなかった。



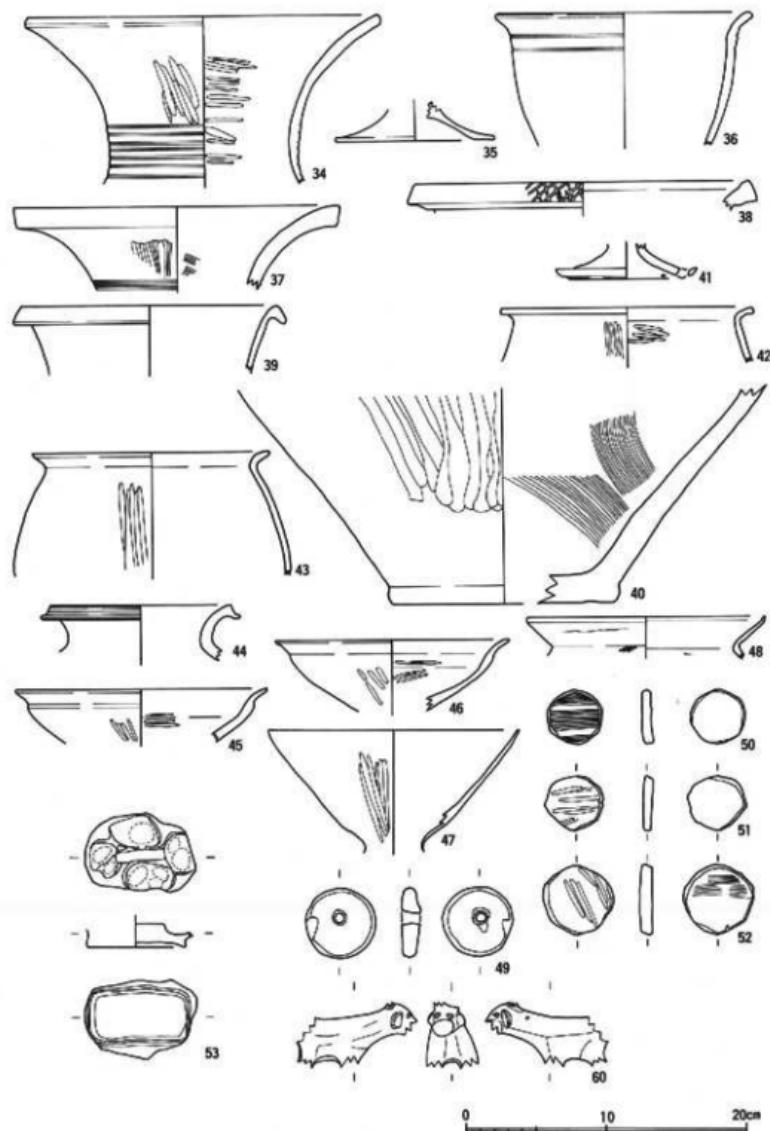
第11図 第5層(33)出土遺物実測図

第5層出土遺物

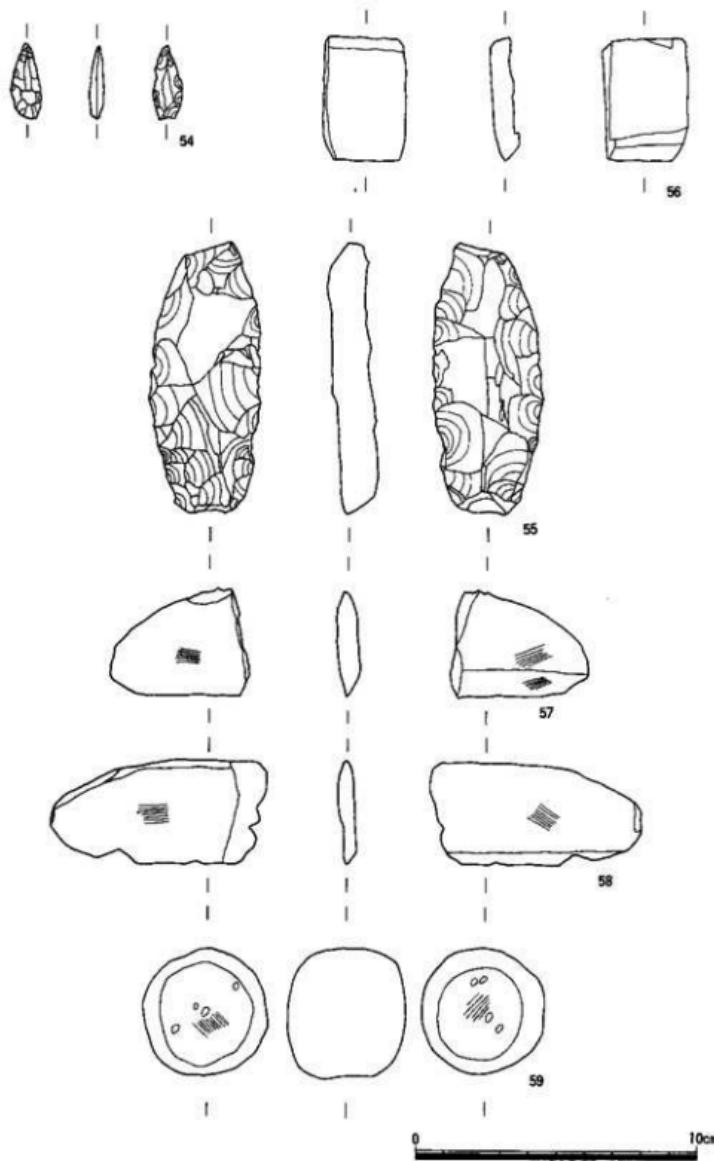
第5層内からは黒色土器の椀(33)が出土した。(33)は、高台部で、内面の見込み部に密な平行のヘラミガキを施した後、連結輪状のヘラミガキを施している。外面の高台部はヨコナデで、底部はナデている。

第10層出土遺物

第10層内からは弥生時代前期～古墳時代前期【庄内式期】の遺物(34～60)が出土した。(34～36)は弥生時代前期末頃のもので、(34)は、頭部外面に多条沈線を施す壺で、河内I-4様式に相当する。(35)は蓋で、焼成前に天井部に孔があけられている。(36)は壺である。(37)は頭部にヘラによる直線文を施しており、また、(38)は口縁端部の面にヘラによる斜格子の文様を施しており弥生時代前期から中期にかけての土器である。(39～43)は弥生時代中期に相当する。(44～47)は弥生時代後期に相当する。(44)は口縁端部の面に凹線文の文様を施しており中期的な様相を残した。(48)は古墳時代前期【庄内式期】の壺である。(49)は紡錘車で、焼成前に中央に孔を開けている。(50～52)は円板型土製品で、いずれも土器を転用している。(50)は直線文を施した壺を転用しており、中期前半頃のものと推定される。(53)は用途不明の土製品で、底部の平面形状は長方形である。底部内面は4箇所ナデくぼみがあり中央に凹線がある。(54)はサヌカイト製の石鎌、(55)石槍の未製品である。(56)は偏平片刃石斧で、B面は斧の柄に取り付けるためほぼ全面を削くぼめられている。(57・58)は石包丁で、(58)は横長のものである。(59)はタタキ石と思われる。円筒形で、全面に叩いた痕跡や磨いた痕跡が見られる。(60)は動物型土製品(鹿?)である。前足および後足、尻尾、顎の口と片方の角の部分が欠損している。全体は丁寧なナデによって仕上げられている。両目は範状の工具で押し付けており、B面の顎の部分と尻の中央部分にも範状の工具で押し付た跡が1箇所ある。頭には、角状の突起が付くと思われる。耳は目の横より下に付けられ、象の耳に似た縦長で幅の広いものを取り付けている。現存長などの各数値は観察表を参考されたい。



第12図 第10層(34~53・60)出土遺物実測図



第13図 第10層(54~59)出土遺物実測図

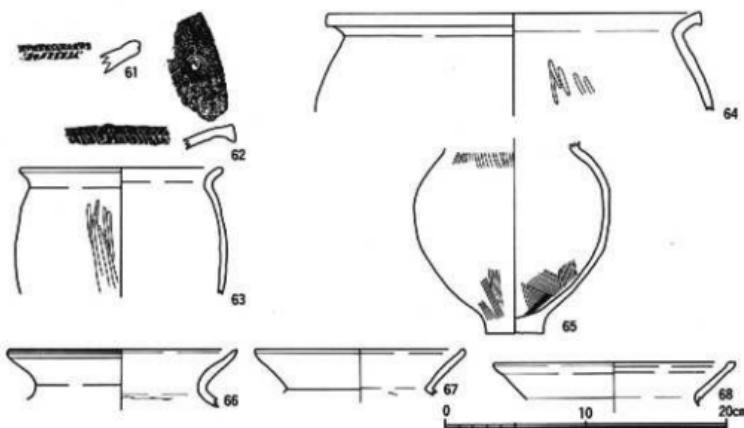
2) 第2区

第2区は、機械掘削終了後壁面が崩壊するおそれがあり、人力掘削を行なうことは危険であると判断し、面的な調査を断念した。そのため第1区の遺構検出面（地表下約2.7m）まで機械により掘削し、第10層内から出土した遺物を採集した。

第10層内出土遺物

弥生時代前期の壺(61・62)、弥生時代中期の甕(63・64)、弥生時代後期の壺(65)、甕(66)、古墳時代前期〔布留式期〕の甕(67・68)が出土した。

(61)は、口縁端面に1条の沈線を施し、この上下にキザミ目を施す。(62)は口縁端面にヘラによる斜格子文を施す。(63)は大型、(64)は小型の甕である。(65)は球形の体部で、内外面共にハケナデを施している。



第14図 第2区 第10層(61~68)出土遺物実測図

註1 佐原真「畿内地方」『弥生土器集成 本編2』 1968 P. 61

註2 寺沢薰・森岡秀人編著「弥生土器の様式と編年」「近畿編I」1989年6月15日 図書出版 木耳社

第4章 出土遺物観察表

SK-1

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|---------------------------|-------------------------------------------|-----|----------------|----|----|
| 1 四 | 弥生土器 甕 | 25.6 21.8 底径 6.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケナデ、外面ヘラミガキ。口縁端部にキザミ目を施す。 | 橙色 | 1~6mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| | | | | | | | |

SK-2

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|------------------------|-------|----------------|----|----|
| 2 四 | 弥生土器 甕 | 33.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。 | にぶい褐色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| | | | | | | | |

SK-5

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|-----------------------|--------|----------------|----|----|
| 3 四 | 弥生土器 甕 | 16.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケナデ。 | にぶい黄褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| | | | | | | | |

SK-6

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|--------------------|----------------|-------------------------------------------------|--------|----------------|----|----|
| 4 五 | 弥生土器 甕 | 23.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。口縁端面に直線文を施したのち幅方向の直線文を施す。 | 灰黄色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 5 五 | 弥生土器 甕 | 25.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい黄褐色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 6 四 | 弥生土器 甕 | 15.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外側ハケナデ。 | にぶい黄褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 7 四 | 弥生土器 土製有孔 円板 | 厚さ 0.8 | 内外面ナデ。焼成前に2個孔がある。 | にぶい黄褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| | | | | | | | |

SD-1

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|---------------------|-----|--------------|----|----|
| 8 四 | 弥生土器 甕 | 32.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 黒褐色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| | | | | | | | |

SK-2

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|-----------------|----------------|-------------------|-----------------------------|------------|------------------------|----|----|
| 9 秀生土器 蓋 | | 14.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 灰オリーブ 色 | 1~4mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 10 秀生土器 蓋 | | 22.3 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 灰黄色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 11 西 石器 | 現存長 幅 厚さ | 4.9 2.2 0.7 | 両面共に剥離された痕跡が残る。 | 暗灰色 | | | |
| 12 西 石包丁 | 現存長 幅 厚さ | 9.6 5.5 0.6 | 片刃で、両面共に研磨痕が残る。紐孔が2個 ある。 | 緑灰色 | | | |
| 13 西 石器 | 現存長 幅 厚さ | 3.9 2.5 0.6 | 両面共に研磨痕が残る。 | 暗灰色 | | | |

SK-3

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|-------------------------|----|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------|----|----|
| 14 秀生土器 底径 長振蓋 | | 11.5 28.5 4.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、 外面ハラミガキ。体部内面ヘラミガキ下半は ハケナデ、外面ハラミガキ。体部内面下半に 放射状にヘラによる沈線を施し、外面下半に 2条のヘラ記号がある。 | にぶい黄褐色 | 1~4mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 15 秀生土器 底径 長振蓋 | | 12.2 27.8 4.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、 外面ナデ。頭部内面に1条のヘラ記号あり。 体部内面ハケナデ、外面ハラミガキ。 | 灰白色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 16 秀生土器 底径 長振蓋 | | 11.4 25.0 5.1 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、 外面ナデ。頭部内面に1条のヘラ記号あり。 体部内面ハケナデ、外面ナデ。 | にぶい橙色 | 1~4mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 17 秀生土器 底径 長振蓋 | | 10.7 23.6 5.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、 外面ナデ。体部内面ハケナデ、外面上半ハケ ナデ、下半ハラミガキ。粘土のつぎめが残る。 | 浅黄色 | 1~5mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 18 秀生土器 底径 長振蓋 | | 13.1 26.1 5.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、 外面ハラミガキ。体部内面ハケナデ、外面ハ ラミガキ。 | 浅黄色 | 1~5mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 19 秀生土器 底径 長振蓋 | | 12.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部および体部内外 面ハケナデ。粘土のつぎめが残る。 | にぶい黄褐色 | 1~4mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 20 秀生土器 蓋 | | 13.5 27.6 4.9 | 口縁部および頭部内外面ヨコナデ。体部内面 ナデ、外面ハラミガキ。 | にぶい橙色 | 1~6mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 21 秀生土器 蓋 | | 21.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | にぶい黄褐色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |

SK-8

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------|----------------|----|----|
| 22 | 弥生土器 壺 | 底径 3.8 | 体部内面ハケナデ、外面ナデ。 | 淡黄色 | 1~5mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 23 | 弥生土器 壺 | 底径 4.5 | 体部内面ハケナア、外面ヘラミガキ。 | 灰黄色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 24 | 弥生土器 鉢 | 10.7 6.1 底径 4.4 | 体部内面ハケナデ、外面ナデ。 | にぶい黄色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 25 | 弥生土器 小型鉢 | 6.7 6.4 底径 3.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。 | にぶい黄橙色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 26 | 弥生土器 有孔鉢 | 16.2 10.2 底径 5.1 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケナデ、外面ナデ。底部に焼或前に孔あり。 | 橙色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 27 | 弥生土器 有孔鉢 | 14.7 12.0 底径 2.7 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面タタキ。底部に焼成前孔あり。 | 浅黄褐色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 28 | 弥生土器 有孔鉢 | 15.8 12.4 底径 4.7 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケナデ、外面タタキ。底部に焼成前孔あり。 | にぶい黄橙色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 29 | 弥生土器 高杯 | 23.4 16.5 底径 13.4 | 杯部内面ナデ、外面ヘラミガキ。脚部および脚部内面ハケナデ、外面ヘラミガキ。底部にスカシ孔が3箇所あり。 | 褐色 | 1~6mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 30 | 弥生土器 高杯 | 15.4 | 脚部内面ナデ、外面ヘラミガキ。脚部にスカシ孔が4箇所あり。 | にぶい黄橙色 | 1~6mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 31 | 弥生土器 小型壺 | 11.9 13.7 底径 4.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい橙色 | 1~5mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 32 | | 現存長 7.2 径 4.2 孔径 0.8 | 全体ナデ。中央に貫通した孔がある。 | 灰黄色 | 粗 | 良好 | |

第5層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|---------------------------|-----------------------------------|------|-----|----|----|
| 33 | 黒色土器 壺 | 高台径 19.8 高台高 0.4 | 高台部ヨコナデ。見込み部ヘラミガキ。螺旋状のヘラによる暗文がある。 | 外赤褐色 | 精良 | 良好 | |

第10表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法基 口径 器高 | 調査姿 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|-----------------|------|-------------|---------------------------------------------|-------|----------------|----|----|
| 34 七 壺 | 弥生土器 | 21.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ヘラミガキ。頭部外面に平行の沈線を7条+α施す。 | 灰白色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 35 七 壺 | 弥生土器 | 11.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。天井部内外面ナデ。天井部に孔あり。 | 黄灰色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 36 七 壺 | 弥生土器 | 17.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外面に沈線を2条施す。 | 褐灰色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 37 七 壺 | 弥生土器 | 23.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。頭部内面ハケナデ、外面ヘラミガキ。頭部外面に櫛搔き直線文を施す。 | 灰黄色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 38 七 壺 | 弥生土器 | 23.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。端面にヘラによる斜格子文を施す。 | 灰白色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 39 七 壺 | 弥生土器 | 18.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。 | 灰色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 40 大型壺 底径 | 弥生土器 | 15.8 | 体部内面ハケナデ、外曲ヘラミガキ。底部内外面ナデ。 | 浅黄色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 41 高杯 幅径 | 弥生土器 | 7.9 | 杯部内外面ナデ。焼成前に孔あり。 | 黄灰色 | 粗 | 良好 | |
| 42 七 壺 | 弥生土器 | 17.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外曲ハケナデ。 | 黄灰色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 43 七 壺 | 弥生土器 | 16.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外曲ヘラミガキ。 | 灰青褐色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 44 七 壺 | 弥生土器 | 12.8 | 口縁部および頸部内外面ヨコナデ。口縁端面に凹線文を施す。 | にじむ褐色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 45 高杯 | 弥生土器 | 17.8 | 杯部内外面ヘラミガキ。 | 灰白色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 46 高杯 | 弥生土器 | 16.6 | 杯部内外面ヘラミガキ。 | 灰白色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 47 七 体 | 弥生土器 | 17.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外曲ヘラミガキ。 | 灰色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 48 七 壺 | 上部器 | 16.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外屈タクキ | 灰黄色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第10表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 基高 | 調査 | 色調 | 胎上 | 焼成 | 備考 | |
|--------------|------------|-------------------|-------------------|-----------------------------------------------------|------|--------------|----|----------------|
| 49 八 | 紡錘車 | 径 孔様 厚さ | 3.0 0.7 1.4 | 中央部が周縁部よりも厚い。平面と側面の境の後縁は丸みをもつ。内外面ともにナデ。焼成前に孔が中央にある。 | 灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 50 七 | I型円板 | 径 厚さ | 4.0 0.6 | 円形を呈する。5~6回の打ち欠きで成形。周縁は研磨され、丸みをもつ。 | 黄灰色 | 粗 | 良好 | Ⅱ様式の茎の体部破片。 |
| 51 八 | I型円板 | 径 厚さ | 4.0 0.6 | 円形を呈する。5~6回の打ち欠きで成形。周縁は研磨され、丸みをもつ。 | 明褐色 | 粗 | 良好 | 繖か壺の体部破片と思われる。 |
| 52 八 | 土製円板 | 径 厚さ | 5.0 0.8 | 円形を呈する。5~6回の打ち欠きで成形。周縁は研磨され、丸みをもつ。 | 暗褐色 | 粗 | 良好 | 繖か壺の体部破片と思われる。 |
| 53 九 | 土製品 | 底長径 底短径 | 6.8 4.0 | 底面は長方形を呈する。底部内面は4箇所にくぼみがあり、ナデしている。中央に1条の凹縫がある。 | 灰黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 54 九 | 石礫 | 現存長 幅 厚さ | 2.7 1.0 0.5 | 両面の傾側に剥離痕あり。 | 暗灰色 | | | |
| 55 九 | 石礫 | 現存長 幅 厚さ | 9.7 4.0 1.3 | 両面に剥離痕あり。 | 暗灰色 | | | |
| 56 九 | 偏平片刃石 | 現存長 幅 厚さ | 4.4 3.0 0.8 | 両面共に研磨されている。B面は斧の柄に取り付けるため全面が削くぼめられている。 | 緑灰色 | | | |
| 57 一〇 | 石包丁 | 現存長 厚さ | 5.0 0.8 | 片刃で、両面共に研磨されている。 | 緑灰色 | | | |
| 58 石包丁 | | 現存長 厚さ | 7.7 0.6 | 片刃で、両面共に研磨されている。 | 樹脂灰色 | | | |
| 59 一〇 | タクキ石 | 現存長 径 | 4.2 4.4 | 円筒形を呈する。両面共に研磨されている。叩いた跡痕が両面に残っている。 | 灰黄褐色 | | | 和泉砂岩 |
| 60 一〇 | 動物製土 製品 | 現存長 現存高 現存幅 | 8.6 4.6 3.6 | 丁寧にナデて仕上げられている。耳の部分は後から取り付けられている。 | 灰黄褐色 | | | |
| 61 一 | 獣生土器 | | | 口縁部内外面ヨコナデ。端面にヘラによる斜格子文を施し、この上下に刻目を施す。 | 黒褐色 | | 良好 | |
| 62 一 | 獣生土器 | | | 口縁部内外面ヨコナデ。端面にヘラによる斜格子文を施す。 | 灰色 | | 良好 | |
| 63 一 | 獣生土器 | 14.2 | | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。 | 暗灰色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第10表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調査 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|--------------------------------|------------|------------------------|----|----|
| 64 | 弥生土器 甕 | 26.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、 外面ナデ。 | 明褐色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 65 | 弥生土器 甕 | 裏押 4.1 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケナデ。 | 黄褐色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 66 | 弥生土器 甕 | 16.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | にぶい橙色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 67 | 弥生土器 甕 | 14.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、 外面ナデ。 | 暗灰褐色 | 1~2mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |
| 68 | 弥生土器 甕 | 17.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | にぶい黄橙 色 | 1~3mm程 度の砂粒を 含む。 | 良好 | |

第5章 まとめ

今回の調査では、弥生時代前期・中期・後期の各時期の遺構を確認し、弥生時代全般にわたって当調査内で生活をしていたことがあきらかになった。

弥生時代前期

この時期の遺物は、昭和57年度調査地（①）および昭和59年度調査地（②）で出土しているが、同時期の遺構は検出していない。今回の調査ではじめて検出したことにより、この時期から生活していることが明らかになった。

検出した遺構は、土坑1基（SK-1）のみで、今回の調査地内で前期のものは、この遺構以外検出していない。しかし、平成5年度調査地（⑦_北）では同時期の遺構を多数検出していることから、今回の調査地から南西地域一帯に同時期の集落が存在していたことが判明した。

土坑（SK-1）内からは、ほぼ完形近くに復元できる壺が1点出土しており、体部の内外面には、煮炊きに使用したと推定される煤の付着が認められた。

弥生時代中期

この時期の遺構は、昭和59年度調査地（②）で検出している。今回の調査では中期でも新しい様相を示す土器の出土ではなく、中期でも比較的古い、Ⅱ様式の様相を持つものの出土があった。上記、前期の遺構と同様、平成5年度調査地（⑦_北）では同時期の遺構を多数検出していることから、前期に引き続き今回の調査地から南西地域一帯に同時期の集落が存在していたことが判明した。

同時期の墓域は、大阪府教育委員会調査地で検出されており、おそらく今回の調査地一帯で集落を営んでいた人々のものと推定される。

弥生時代後期

後期の遺構は、土坑1基（SK-8）である。このSK-8内からは後期の前半に位置付けられる土器が出土した。

出土した遺物は、長頸壺の完形品及び完形近くに復元可能なものが6点、壺が1点、有孔鉢が3点、小型鉢が2点、高杯が1点、壺が1点のほか壺、高杯、土錘の破片で、土坑内の最上層に集積していた。

出土した遺物は、長原遺跡（SB-01）出土の土器に類似し、弥生時代後期の前半の河内V-

2 様式に位置付けられる

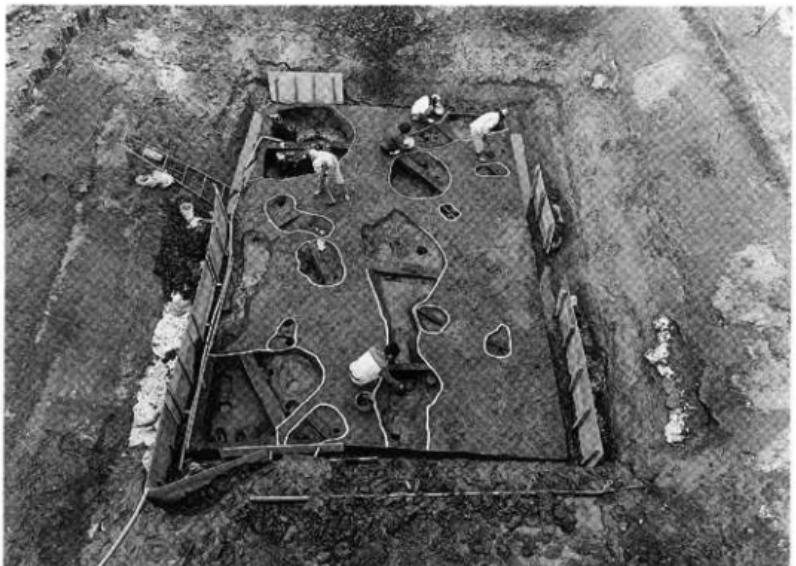
同時期の遺物は、平成5年度調査地(⑦)でも出土していることから、後期でも比較的古い時期の集落が当調査地に存在していたことが判明した。

- 註1 財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度』「II 山井中遺跡」 1989年3月 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告17
- 註2 財團法人 八尾市文化財調査研究会『平成5年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』
- 註3 大阪府教育委員会『山井中遺跡発掘調査概要・I』 1991年3月
- 註4 長原遺跡調査会 財團法人 大阪市文化財協会『大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告』一大阪市交通局地下鉄谷町線延長工事、第31・32丁区の発掘調査—1978.3 1982.3改訂
- 註5 寺沢真・森岡秀人編著『你生土器の様式と編年』「近畿編Ⅰ」1989年6月15日 図書出版 木耳社

図 版



調査地周辺（東から）



第1区 調査状況（東から）



第1区 全景（東から）



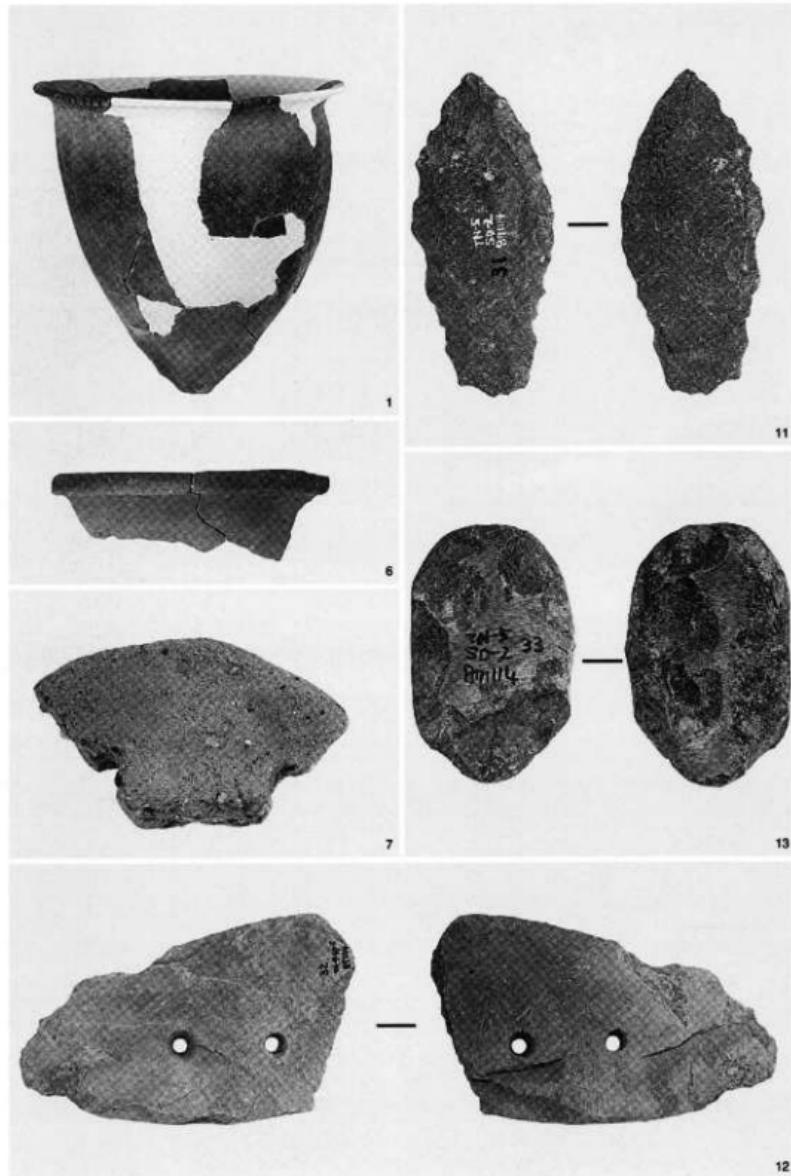
第1区 SK-1 遺物出土状況（西から）



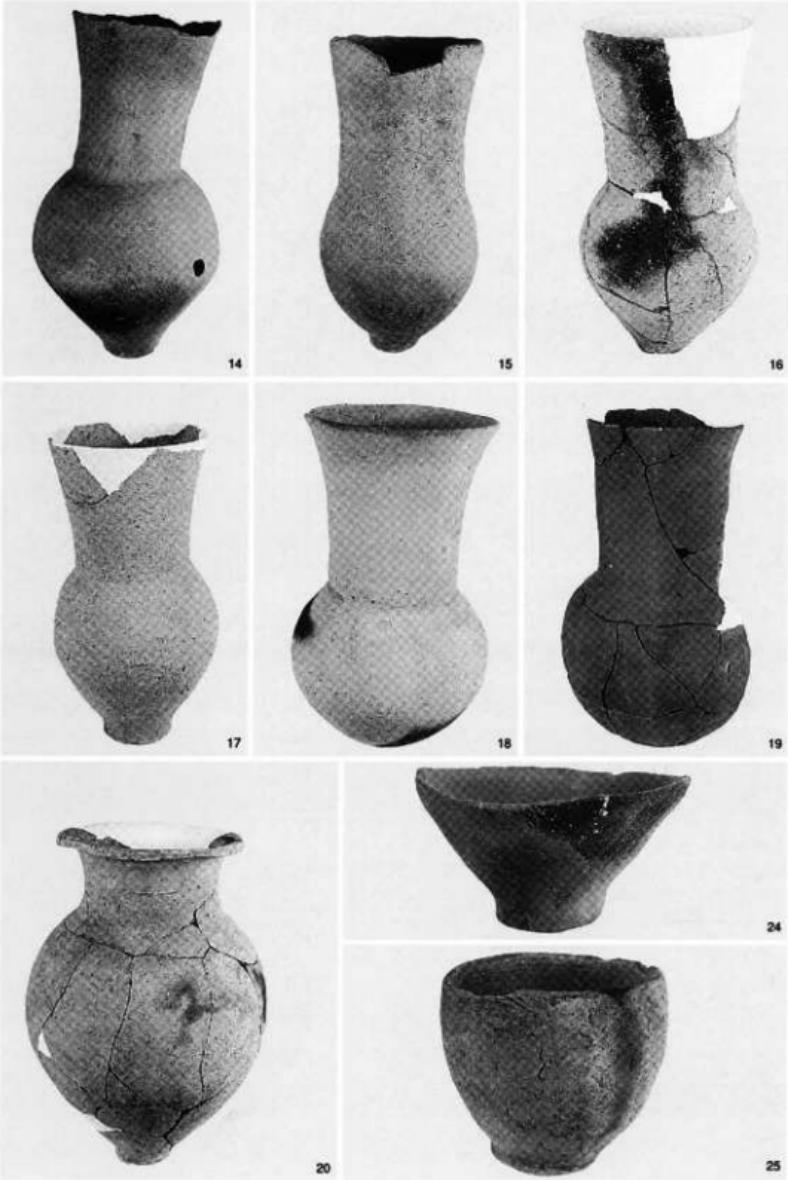
第1区 SK-8 遺物出土状況（北から）



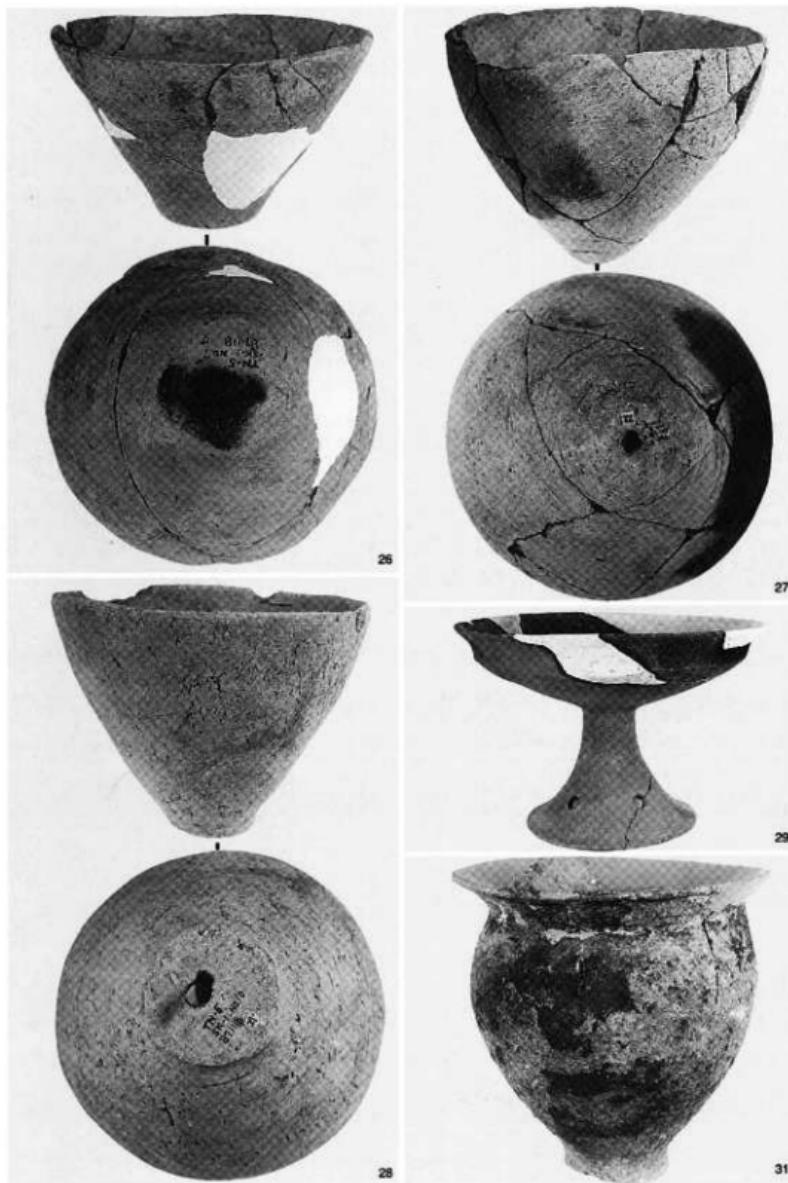
第2区 全景（南から）



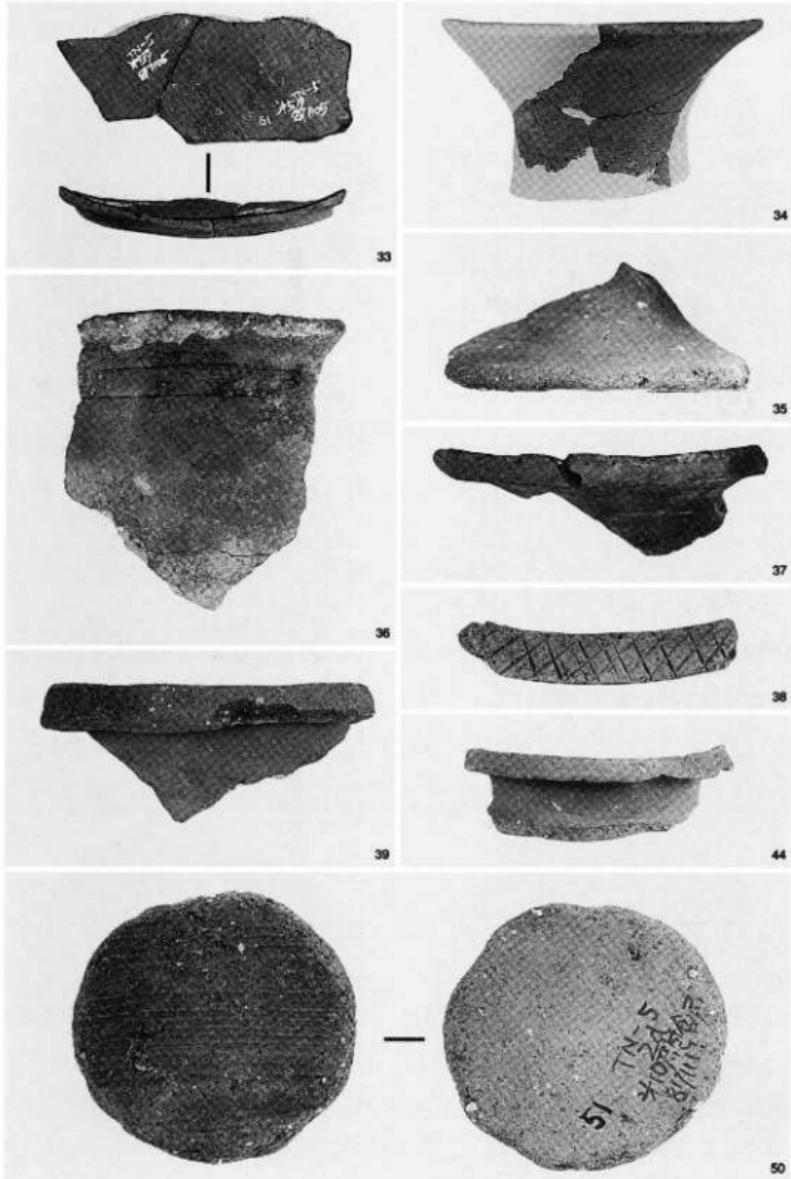
第1区 SK-1(1) SK-6(6·7) SD-2(11~13) 出土遺物



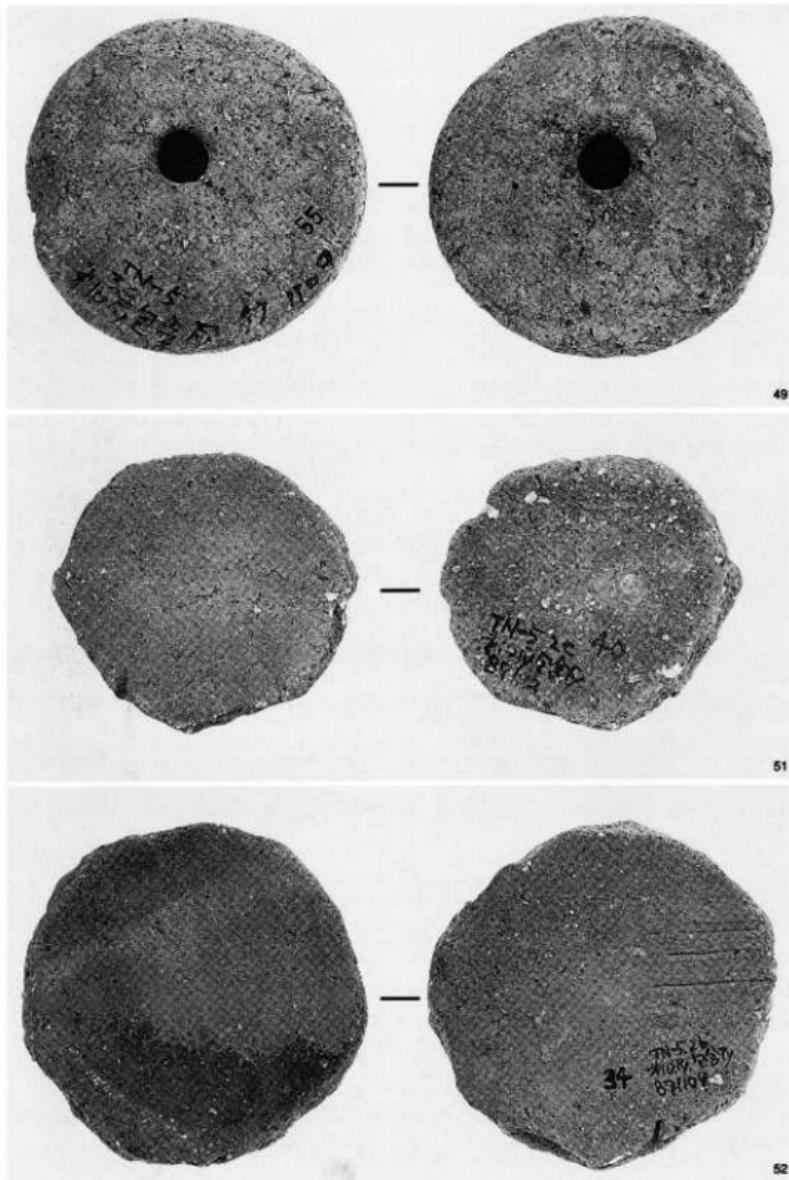
第1区 SK-8(14~20・24・25)出土遺物



第1区 SK-8(26~29・31)出土遺物



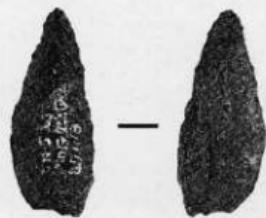
第1区 第5層(33) 第10層(34~39・44・50)出土遺物



第1区 第10層（49・51・52）出土遺物



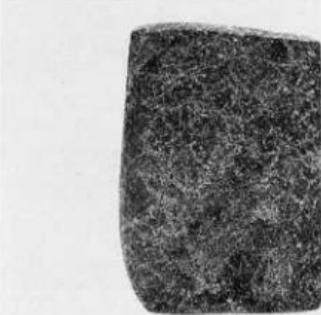
53



54



55

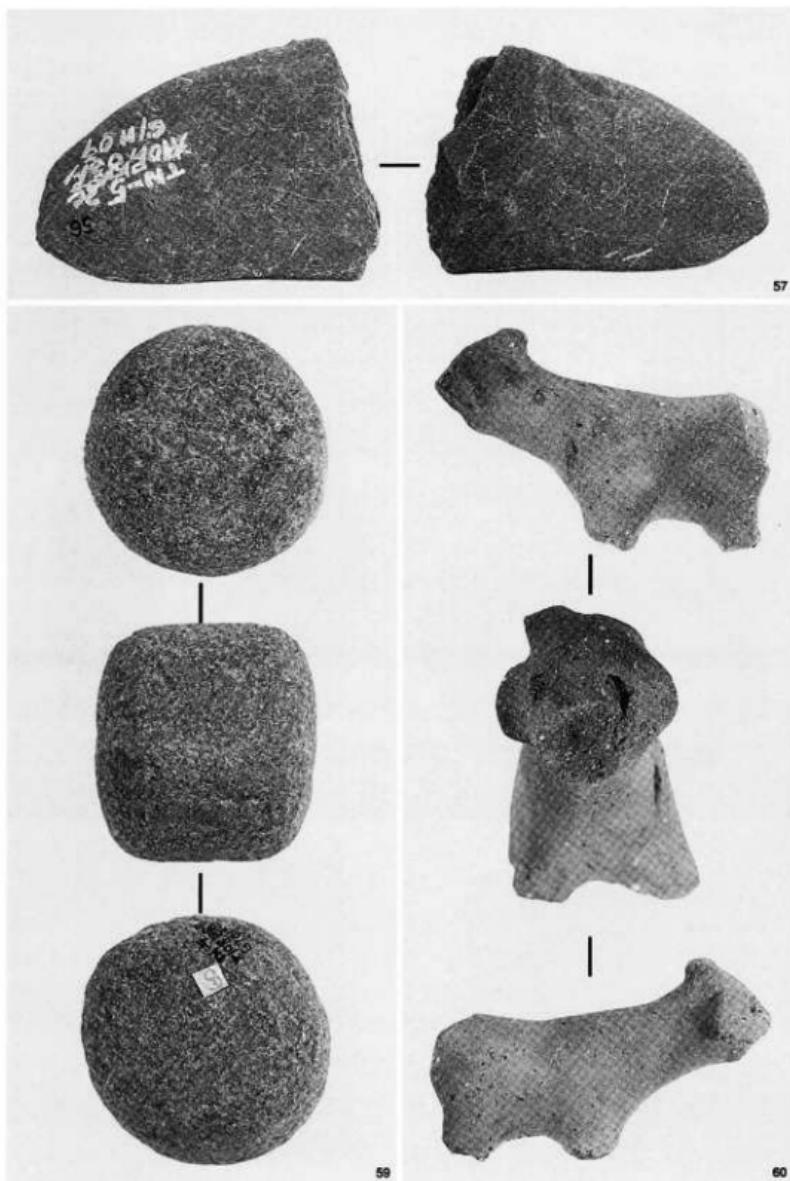


—



56

第1区 第10層(53~56)出土遺物



第1区 第10層（57・59・60）出土遺物

II 田井中遺跡第7次調査(TN88-7)

例　　言

1. 本書は八尾市空港1丁目81で実施した通信鉄塔建設事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する田井中遺跡の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第182号 昭和63年2月25日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が防衛庁から委託を受けて実施したものである。
1. 本調査は財団法人八尾市文化財調査研究会が田井中遺跡内で実施した第7次調査（遺跡略号 TN88-7）である。
1. 現地調査は昭和63年5月30日～同年6月16日かけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約25m²を測る。なお調査には岡田聖一・小林智恵・小西博樹が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成7年3月に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測—西村（公）・西村和子、図面レイアウト・トレース—西村（公）・西村（和）・中西明美、遺物写真撮影—西村（公）が行なった。
1. 本書の執筆および編集は西村（公）が行なった。

本文目次

| | |
|---------------|----|
| 第1章 調査に至る経過 | 27 |
| 第2章 調査概要 | 27 |
| 第1節 調査の方法と経過 | 27 |
| 第2節 基本層序 | 28 |
| 第3節 検出遺構・出土遺物 | 30 |
| 第3章 出土遺物観察表 | 33 |
| 第4章 まとめ | 35 |

挿図目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1図 基本層序図 | 29 |
| 第2図 SD-1 (1・2) SD-2 (3) 出土遺物実測図 | 30 |
| 第3図 SK-1 平断面図 | 30 |
| 第4図 SK-1 (4~6) 出土遺物実測図 | 30 |
| 第5図 地区割図 | 31 |
| 第6図 檜出遺構平面図 | 31 |
| 第7図 第10層 (7~17) 出土遺物実測図 | 32 |

図版目次

図版一 調査地全景（北から）

SK-1 遺物出土状況（東から）

図版二 SD-1 (2) SK-1 (5) 第10層 (7・10~12・14・16) 出土遺物

第1章 調査に至る経過

田井中遺跡は、大阪府八尾市の南部に位置しており、現在の行政区画では田井中1～2・4丁目、志紀町西2・3丁目、空港1丁目一帯の東西約1.0km、南北0.6kmの範囲にある。

当遺跡内では、昭和57年度に陸上自衛隊八尾駐屯地内において施設建設の工事が行なわれ、それに伴う発掘調査を実施した結果、弥生時代と推定される遺構と弥生時代～古墳時代に至る遺物を含んでいる層を検出した(①)_gをはじめ、この調査以降、同遺跡内の同駐屯地内では昭和62年度までに当調査研究会で2件(②・③)_gの調査を実施している。これらの調査では弥生時代前期から中世に至る遺構の検出および遺物の出土があり、特に弥生時代全般を通じ、当遺跡内で集落を営んでいたことが明らかになった。

このような情勢下、昭和63年度に同駐屯地内で通信鉄塔を建設する旨の通知が同施設局から同文化財課にあった。同文化財課では、昭和57年度の調査(①)_gや昭和59年度の調査(②)_gおよび今回報告する第5次調査(③)_gの調査結果から発掘調査が必要と判断した。同文化財課は事業者に建設工事によって地下に埋没している文化財の破壊が予想される部分を対象に発掘調査が必要である旨を通知し、発掘調査を実施することが両者で合意された。上記のことより当調査研究会へ全面発掘調査が依頼されたものである。

今回の調査地(④)_gは、昭和63年度に当調査研究会が実施した第5次調査地の南東約80mに位置し、田井中遺跡推定範囲内の中央より南部にあたる。調査は通信鉄塔建設に伴って実施したもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した第7次調査(遺跡略号 TN88-7)である。

註 ○番号は調査位置であり、本書掲載の「I 田井中遺跡第5次調査」2ページの第1図を参照されたい。

参考文献

- ・八尾市役所 「八尾市史」(前近代)本文編 昭和63年10月27日
- ・財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度』 「II 田井中遺跡」1989年3月 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告17

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

通信鉄塔建設予定地に東西9m×南北11mの調査区を設定した。調査に際しては、現地表下2.1mまでを機械で掘削し、以下の各層は人力による掘削を行ない遺構および遺物の検出に努

めた。その結果、現地表下2.5m（標高T.P.+8.7m）前後に存在する灰青色シルト土層上面で弥生時代前期の溝2条と古墳時代前期（布留式期）の土坑1基を検出した。

第2節 基本層序

調査地全域では比較的安定した土層の堆積状況が確認できた。ここでは南壁面を基本の層序とする。

第0層 盛土（アスファルト、コンクリート含む）。

層厚0.3~0.5m [上面はT.P.+11.2m]。

第1層 灰色粗砂混粘土(10Y 5/1)。層厚0.2m。

第2層 明黄褐色細砂混粘質土(10YR 6/6)。層厚0.1m。

第3層 褐灰色シルト混粘質土(10YR 4/1)。層厚0.1~0.2m。

第4層 灰色シルト混細砂粘質土(5BG 4/1)。層厚0.1~0.3m。

第5層 灰色シルト混粘質土(7.5Y 4/1)。層厚0.3~0.4m。

第6層 オリーブ黄色細砂混シルト(7.5Y 6/3)。層厚0.2~0.4m。

第7層 暗青灰色粘土(10BG 3/1)。層厚0.1~0.2m。

第8層 青灰色細砂混粘土(10BG 6/1)。層厚0.1~0.2m。

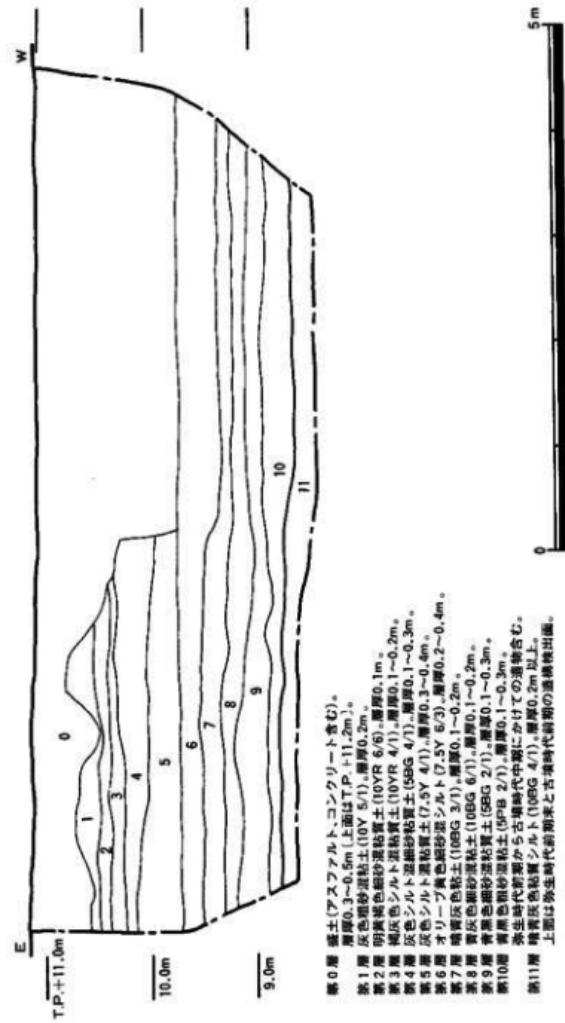
第9層 青黒色細砂混粘質土(5BG 2/1)。層厚0.1~0.3m。

第10層 青黒色粗砂混粘土(5PB 2/1)。層厚0.1~0.3m。

弥生時代前期から古墳時代中期にかけての遺物含む。

第11層 暗青灰色粘質シルト(10BG 4/1)。層厚0.2m以上。

上面は弥生時代前期末と古墳時代前期の造構検出面。



第1図 基本層序図

第3節 検出遺構・出土遺物

弥生時代前期

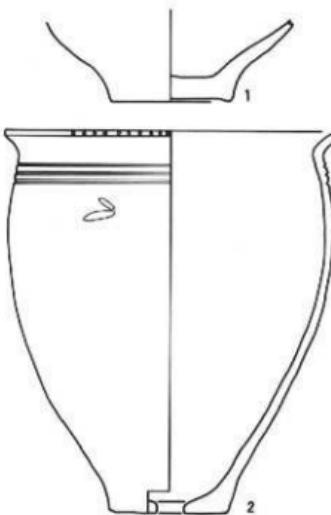
溝（SD）

SD-1

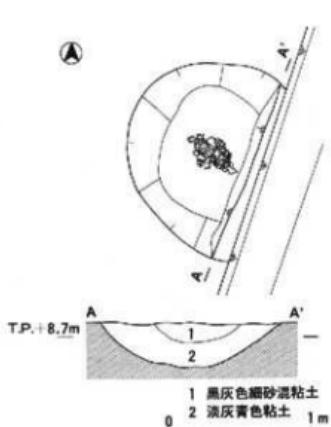
1・2 b区で検出した。南北方向に伸びる。幅1.5m、深さ0.2mを測る。SD-2と合流している。埋土は灰色粘土で、内部からは弥生時代前期の壺（1）、甕（2）が出土した。（1）は突出する平底をもつ。（2）は体部外面に沈線を施し、口縁端部にキザミ目の文様を施す。底部に焼成前に孔が開けられており、体部外表面は煤が全体に付着している。瓶として利用していた可能性が考えられる。

SD-2

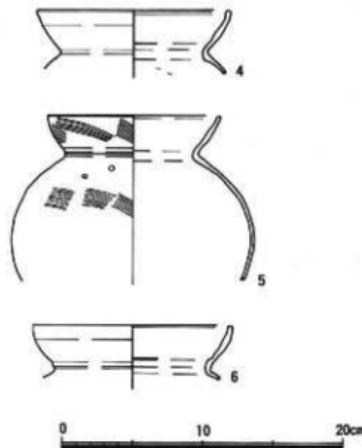
1・2 a・b区で検出した。東西方向に伸びる。幅1.2m、深さ0.2mを測る。SD-1と合流している。埋土は灰色粘土で、内部からは弥生時代前期の壺（3）出土した。（3）は頸部に2条+△の沈線を施している。



第2図 SD-1(1・2) SD-2(3)
出土遺物実測図



第3図 SK-1 平断面図



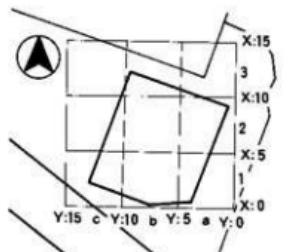
第4図 SK-1(4~6)出土遺物実測図

古墳時代前期（布留式期）

土坑（SK）

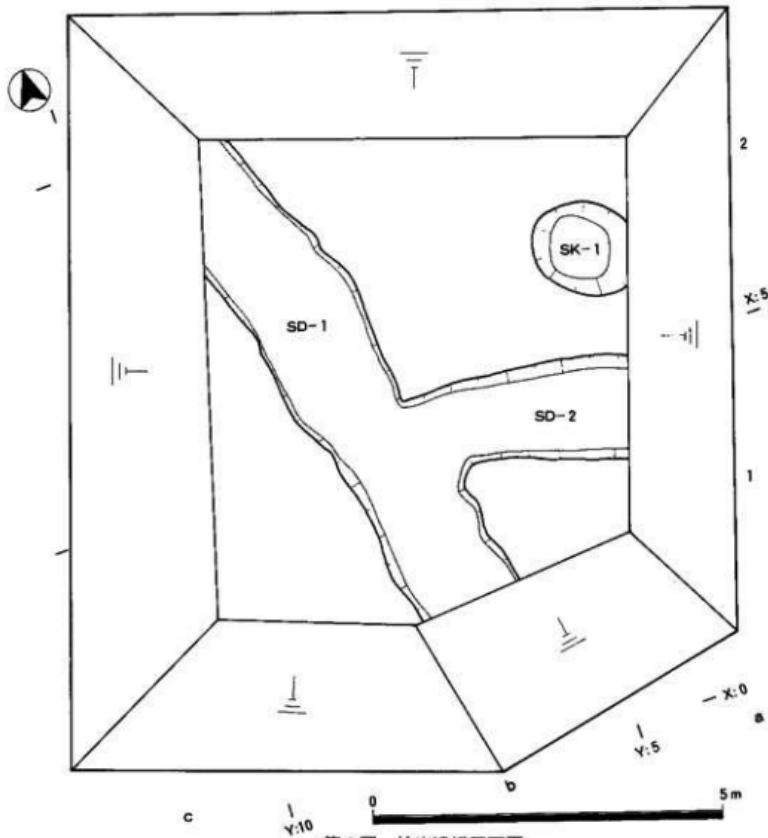
SK-1

2 a区で検出した。平面の形状は円形である。径1.3m、深さ0.3mを測る。埋土は上から黒灰色細砂混粘土、淡灰青色粘土で、黒灰色細砂混粘土からは上師器の壺（4~6）が出土した。(5) の体部外面にはヘラによるくぼみがある。



第5図 地区割図

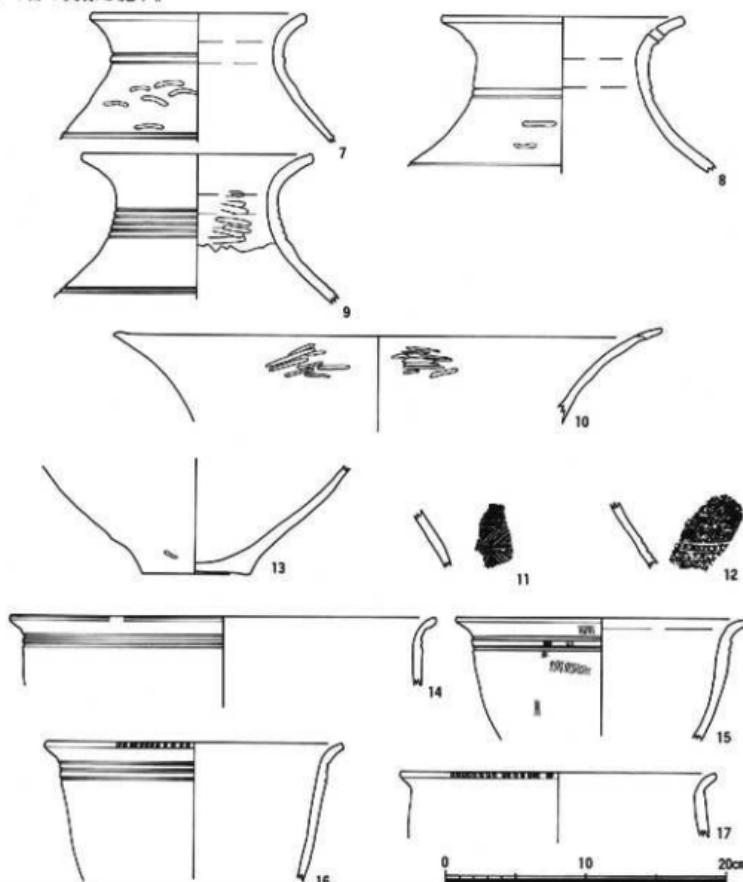
3
— X:10



第6図 検出遺構平面図

第10層内出土遺物

第10層内からは弥生時代前期の壺(7~13)、甕(14~17)が出土した。(7)は頸部に2条、体部に2条+αの沈線文を施している。(8)は、頭部に2条、体部に1条+αの沈線文を施し、口縁部には焼成前に孔が開けられている。(9)は頸部に5条、体部に2条+αの沈線文を施している。(10)は口縁端部に突起部分が1箇所ある。(11・12)は、体部片で、(11)には平行の沈線間に5条の弧状の沈線を施している。(12)には平行の沈線内に刺突文を施している。(13)は突出する平底をもつ。(14~16)は体部外面に沈線を施し、(16~17)は口縁端部にギザミ目の文様を施す。



第7図 第10層(7~17)出土遺物実測図

第3章 出土遺物観察表

SD-1

| 遺物番号 国版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|---------------------------|-----------------------------------------------------|-----|----------------|----|---------------|
| 1 | 弥生土器 壺 | 底径 8.4 | 底部内外面ヨコナデ。 | 橙色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 2 | 弥生土器 壺 | 23.4 27.2 底径 8.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、体部外側ハラミガキ。体部上位に3条沈線施す。縁間にキザミ目を施す。 | 橙色 | 1~6mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | 底部中央に焼成前に孔あり。 |

SD-2

| 遺物番号 国版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|--------------------------|-----|----------------|----|----|
| 3 | 弥生土器 壺 | 15.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。腹部に3条+oの沈線施す。 | 橙色 | 1~5mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

SK-1

| 遺物番号 国版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|----------|----------------|---------------------------------------------------------|-----|----------------|----|----|
| 4 | 土師器 壺 | 13.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハラケズリ。 | 橙色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 5 | 土師器 壺 | 12.2 | 口縁部内面ヨコナデ、外面ハケナダのちヨコナデ。体部内面ハラケズリ、外曲ハケ。体部上位にヘラによるくぼみがある。 | 橙色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 6 | 土師器 壺 | 14.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハラケズリ。 | 橙色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第10層

| 遺物番号 国版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|-------------------------------------------------------------|--------|----------------|----|----|
| 7 | 弥生土器 壺 | 15.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハラミガキ。腹部に2条と、体部に2条+oの沈線を施す。 | 橙色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 8 | 弥生土器 壺 | 17.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハラミガキ。腹部に2条と、体部に1条+oの沈線を施す。口縁部に焼成前に孔あり。 | 橙色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 9 | 弥生土器 壺 | 16.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハラミガキ、外面ナデ。腹部に5条と、体部に2条+oの沈線を施す。 | にぶい黄褐色 | 1~1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 10 | 弥生土器 壺 | 38.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハラミガキ。口縁部に1箇所突起部あり。 | 橙色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 11 | 弥生土器 壺 | | 体部内面ナデ、外面にヘラによる2条の平行沈線の間に5条の弧状の沈線を施す。 | 灰黃褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第10表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口様 器高 | 調査 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|-----------------------------------------------|--------|----------------|----|----|
| 12 二 | 弥生土器 壺 | | 体部内面ナデ。平行の沈線の間に円形の刺突文を施す。 | にふい黄橙色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 13 二 | 弥生土器 壺 | 底部 7.6 | 底部内面ナデ、外面ヘラミガキ。 | 橙色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 14 二 | 弥生土器 壺 | 30.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部外曲に2条沈線を施す。 | 灰褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 15 二 | 弥生土器 壺 | 20.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケナデ。体部外曲に2条の沈線を施す。 | にふい黄橙色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 16 二 | 弥生土器 壺 | 21.0 | LI縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外曲に3条の沈線を施す。端面にキザミ目を施す。 | 橙色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 17 | 弥生土器 壺 | 22.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。端面にキザミ目を施す。 | 灰黃褐色 | 1~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第4章 まとめ

今回の調査では、弥生時代前期と古墳時代前期（布留式期）の遺構を検出した。

弥生時代前期

今回の調査では、南北方向に伸びる溝1条（SD-1）と東から合流する溝1条（SD-2）を検出した。

このSD-1内からは、前期でも畿内第一様式中段階に位置付けられる河内I-2様式の壺（2）や、SD-2内からも同様式の壺（3）が出土しており、また遺構を検出した直上の包含層の第10層内からも、同様式の壺（7・8）、甕（14～17）や、同様式より古い河内I-1様式に見られる弧状の文様を描いた壺の体部の出土もあった。のことから前期でもやや古い中段階以前から集落を形成していたことも推測できる。

SD-1内から出土した壺（2）は、成形段階で底部中央に孔をあけている。体部には、2次焼成による煤が付着しており、甕として使用したものなのかは不明であるが、おそらく煮炊きに使用されたことは確実であると思われる。

同時期の遺構は、財團法人八尾市文化財調査研究会第11次調査・第12次調査で数多く検出されているほか、同研究会第1次調査・第2次調査・第5次調査・第10次調査でもこの時期の遺物を出土していることから、今回の調査地より西方約100～150mの範囲が同時期の集落域であった可能性が考えられる。

古墳時代前期 [布留式期]

土坑（SK-1）内からは、布留式期の甕が集積して出土した。甕は3個体分あり、3個とも同時期のものであると推定される。時期的には布留式期II期に位置付けられるものである。他の遺構は調査面積が僅かであったため検出はできなかったが、同時期の集落域が今回の調査地周辺に広がっていると推測される。

今回の調査では、古墳時代前期 [布留式期] の遺構が検出されたことから、近辺には弥生時代前期と古墳時代前期の集落が営まれていたことが明らかになった。

しかし、今回の調査地では、弥生時代前期末以降から古墳時代前期 [庄内式期] に至る遺構および遺物の検出はなかった。同時期の遺構は、同研究会第11次調査で検出していることから、今回の調査地は集落域から離れた場所であったことが言える。

古墳時代前期（布留式期）以降、瓦器の破片が極少量出土しているが、遺物の出土はなく、集落（特に居住域）の検出は、今回の調査地ではなかった。面的には調査を行なっていないが、第11次調査地の層序と比較すると、第5層が平安時代頃の水田面に相当し、第7層が古墳時代後期から奈良時代に相当すると推定される。

- 註1 寺沢薫・森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』「近畿編I」1989年6月15日 図書出版 木耳社
- 註2 財團法人 八尾市文化財調査研究会『平成5年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』
- 註3 財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度』「Ⅰ 田井中遺跡」1989年3月 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告17
- 註4 本書掲載 「I 田井中遺跡（第5次調査）」
本書掲載 「Ⅲ 田井中遺跡（第10次調査）」
- 註5 財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』「Ⅱ 久宝寺遺跡（第6次調査）』 1993年 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告37

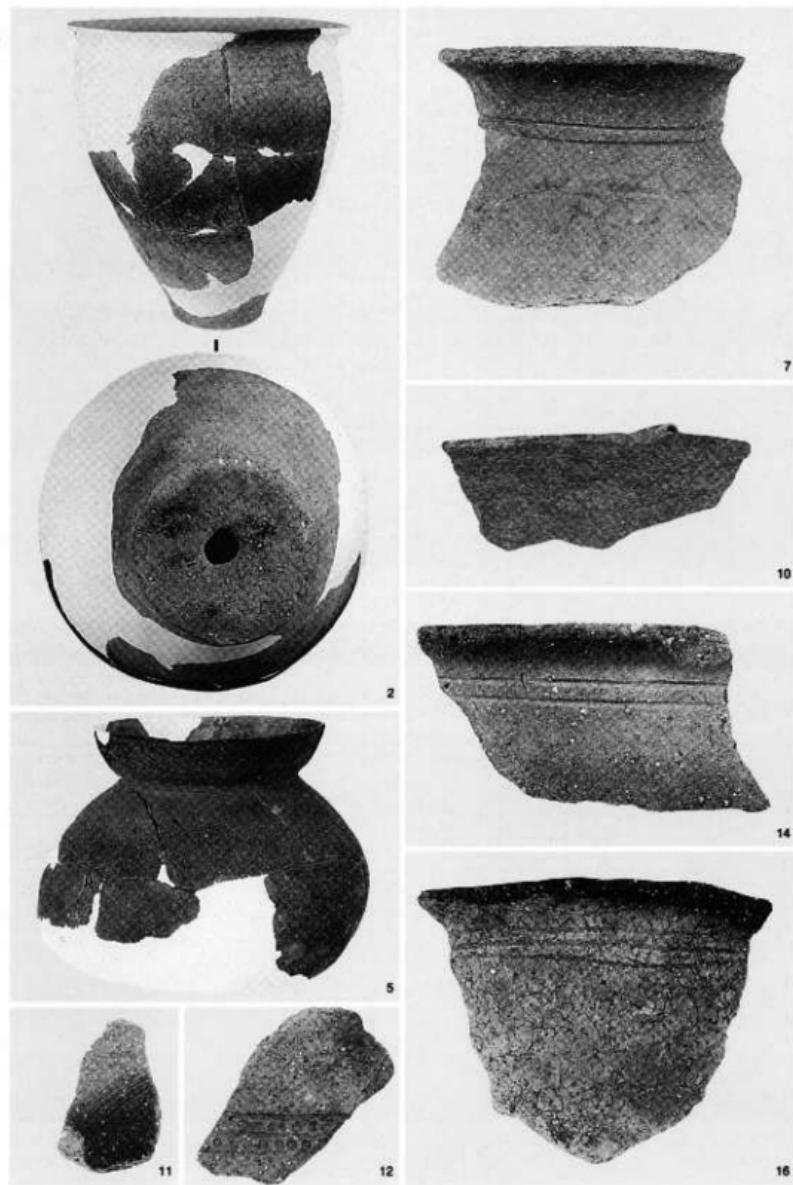
図 版



調査地全景（北から）



SK-1 遺物出土状況（東から）



SD-1(2) SK-1(5) 第10層(7・10~12・14・16)出土遺物

III 田井中遺跡第10次調査(T N92-10)

例　　言

1. 本書は八尾市空港1丁目18で実施した格納庫およびショップ建設事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する田井中遺跡の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第11号 平成4年4月9日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が防衛庁から委託を受けて実施したものである。
1. 本調査は財団法人八尾市文化財調査研究会が田井中遺跡内で実施した第10次調査（遺跡略号 TN92-10）である。
1. 現地調査は平成4年9月28日～同年12月22日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約1003m²を測る。なお調査には中西明美・能勢尚樹・千賀幸二が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成7年3月に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測－西村（公）・中西明美・西村和子・石原好忠・図面レイアウト・トレース－西村（公）・中西・西村（和）・石原、遺物写真撮影－西村（公）が行なった。
1. 本書の執筆および図版は西村（公）が行なった。

本文目次

| | |
|---------------------|----|
| 第1章 調査に至る経過..... | 37 |
| 第2章 調査概要..... | 37 |
| 第1節. 調査の方法と経過..... | 37 |
| 第2節. 基本層序..... | 39 |
| 第3節. 検出遺構・出土遺物..... | 41 |
| 1) I調査地の1区～4区..... | 41 |
| 2) II調査地..... | 45 |
| 第3章 出土遺物観察表..... | 53 |
| 第4章 まとめ..... | 60 |

挿図目次

| | |
|------------------------------------------------------------------------|-------|
| 第1図 調査区設定図 | 38 |
| 第2図 基本層序図 | 40 |
| 第3図 I調査地 第6層(1・2) 第7層(3~11) 第8層(12~20) 第9層(21~28) SD-301(29)出土遺物実測図 | 42 |
| 第4図 I調査地 検出遺構平面図 | 43・44 |
| 第5図 II調査地 第6層(30)出土遺物実測図 | 45 |
| 第6図 II調査地 SD-201(34)出土遺物実測図 | 45 |
| 第7図 II調査地 第8層(31~33)出土遺物実測図 | 46 |
| 第8図 II調査地 第9層(35~44)出土遺物実測図 | 46 |
| 第9図 II調査地 第9層(45~49)出土遺物実測図 | 47 |
| 第10図 II調査地 SK-301(50・51)出土遺物実測図 | 48 |
| 第11図 II調査地 SK-302(52~57)出土遺物実測図 | 48 |
| 第12図 II調査地 SK-303(58~61)出土遺物実測図 | 49 |
| 第13図 II調査地 SP-311(62)出土遺物実測図 | 49 |
| 第14図 II調査地 SD-302(63~68)出土遺物実測図 | 49 |
| 第15図 II調査地 SD-304(69~71)出土遺物実測図 | 50 |
| 第16図 II調査地 第10層(72~79)出土遺物実測図 | 51 |
| 第17図 II調査地 検出遺構平面図 | 52 |

写真目次

| | |
|----------------|----|
| 写真1 調査地周辺(西から) | 41 |
| 写真2 調査状況(西から) | 41 |

図版目次

| | |
|------------------------|--|
| 図版一 I調査地 1区 第1面全景(西から) | |
| I調査地 1区 第2面全景(西から) | |
| I調査地 1区 第3面全景(西から) | |
| I調査地 2区 第1面全景(北から) | |

- I 調査地 2 区 第 2 面全景 (北から)
I 調査地 2 区 第 3 面全景 (北から)
- 図版二 I 調査地 3 区 第 1 面全景 (西から)
I 調査地 3 区 第 2 面全景 (西から)
I 調査地 3 区 第 3 面全景 (西から)
I 調査地 4 区 第 1 面全景 (北から)
I 調査地 4 区 第 2 面全景 (北から)
I 調査地 4 区 第 3 面全景 (北から)
- 図版三 I 調査地 2 区 SD-301 検出状況 (西から)
I 調査地 3 区 SD-301 検出状況 (北から)
- 図版四 II 調査地 第 1 面全景 (北から)
II 調査地 第 2 面全景 (北から)
II 調査地 第 2 面遺構検出状況 (北から)
II 調査地 第 3 面全景 (北から)
II 調査地 第 3 面全景 (南から)
II 調査地 SD-302 検出状況 (東から)
- 図版五 II 調査地 SP-301～SP-315 検出状況 (東から)
II 調査地 SD-304・SD-305 検出状況 (東から)
II 調査地 SK-302 遺物出土状況 (南から)
II 調査地 SK-303 検出状況 (南から)
II 調査地 SD-302 遺物出土状況 (南から)
II 調査地 第 4 面全景 (北から)
- 図版六 I 調査地 第 6 層 (1) 第 7 層 (9) 第 8 層 (13・15) 第 9 層 (28) SD-301 (29)
II 調査地 第 6 層 (30) SD-201 (34) 第 9 層 (36・38) 出土遺物
- 図版七 II 調査地 第 9 層 (39・42・43・45・46・49) 出土遺物
- 図版八 II 調査地 SK-301 (50・51) SK-302 (53・55～57) 出土遺物
- 図版九 II 調査地 SK-303 (58・59・61) SP-311 (62) SD-302 (63・64・67・68) 出土遺物
- 図版一〇 II 調査地 SD-304 (69・70) 第10層 (72・74～76・79) 出土遺物

第1章 調査に至る経過

田井中遺跡は、大阪府八尾市の南部に位置しており、現在の行政区画では田井中1～2・4丁目、志紀町西2・3丁目、空港1丁目一帯の東西約1.0km、南北0.6kmの範囲にある。

当遺跡内では、昭和57年度に八尾駐屯地内において施設建設の工事が行なわれ、それに伴う発掘調査を実施した結果、弥生時代と推定される遺構と弥生時代～古墳時代に至る遺物が濃密に含んでいる層を検出した(①)_uのをはじめ、この調査以降、同遺跡内の同駐屯地内では昭和63年度までに当調査研究会で3件(②)～(④)_uの調査を実施しており、弥生時代前期から中世に至る遺構の検出および遺物の出土があり、特に弥生時代全般を通じ、当遺跡内で集落を営んでいたことが明らかになった。

このような情勢下、平成4年度に同駐屯地内で格納庫とショップを建設する旨の通知が同施設局から同文化財課にあった。同文化財課では、昭和57年度の調査(①)_uや昭和59年度の調査(②)_uおよび今回報告する第5次調査(③)_uと第7次調査(④)_uの調査結果から発掘調査が必要と判断した。同文化財課は事業者に建設工事によって地下に埋没している文化財の破壊が予想される部分を対象に発掘調査が必要である旨を通知し、発掘調査を実施することが両者で合意された。上記のことより当調査研究会へ全面発掘調査が依頼されたものである。

今回の調査地(⑤)_uは、昭和63年度に当調査研究会が実施した第7次調査地の東約150mに位置し、田井中遺跡推定範囲内の中央部にあたる。調査は納庫とショップ建設に伴って実施したもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した第10次調査(遺跡略号 TN92-10)である。

註 ○番号は調査位置で、本書掲載の「I 田井中遺跡第5次調査」2ページの第1図を参照されたい。

参考文献

- ・八尾市役所 「八尾市史(前近代)」本文編 昭和63年10月27日
- ・財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度』
「Ⅰ 田井中遺跡」 1989年3月 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告17
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅰ」 1991年3月
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅱ」 1992年3月
- ・大阪府教育委員会 「田井中遺跡発掘調査概要Ⅲ」 1993年3月

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

調査地での地区割は、調査地の南西側に基準点を置きこの基準点から東へ100m、北へ50m

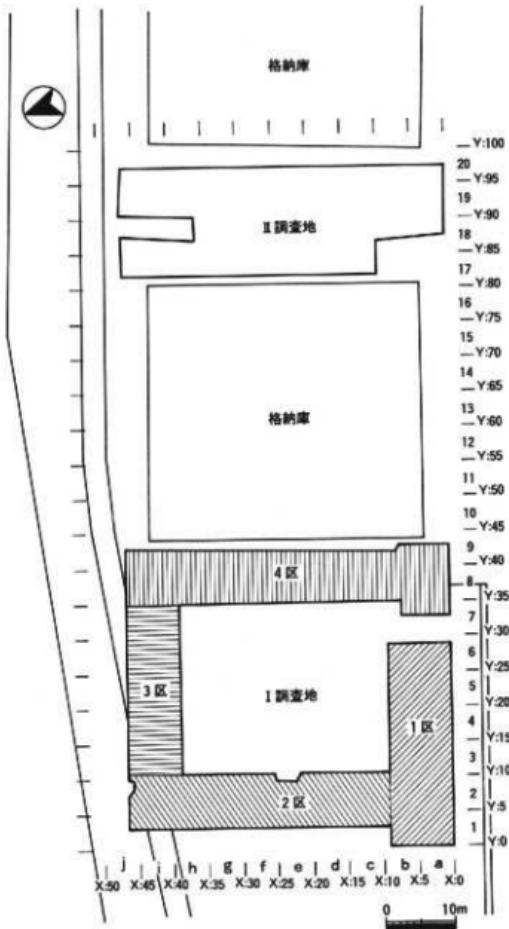
にわたって設定した。一区画の単位は5m四方で、基準点から東西方向は算用数字（西から1～20）、南北方向はアルファベット（南からa～j）で示した。地区割の表示は、一区画の南西隅に交差する線を用い、1a～20j区とした。

今回の調査では調査地が2箇所あるため、格納庫建設部

分をI調査地、ショップ建設部部分をII調査地とし、I調査地から先に調査を開始した。

調査に際しては、第7次調査の調査成果をもとに、現地表下1.8mまでに存在する盛土および旧耕土を機械で排除し、以下約0.8mの各層は人力による掘削を行ない遺構、遺物の検出に努め、I調査地では3面（第1面～第3面）、II調査地では4面（第1面～第4面）にわたる調査を実施した。

その結果、I調査地では、第7層上面で鎌倉時代初頭に埋没した水田遺構、第9層上面で古墳時代後期に埋没した遺構、第10層上面で弥生時代前期末の遺構を検出し、II調査地では、第7層上面で鎌倉時代初頭に埋没した水田遺構、第9層上面で古墳時代中期から後期の遺構、第10層上面で弥生時代前期末の遺構を検出した。またII調査地では第11層上面で調査を行なったが遺構の検出はなかった。



第1図 調査区設定図

第2節. 基本層序

調査地には、一部に現代の産業廃棄物（コンクリート等）含む現代に掘られた穴の存在があり、本米の堆積土層が壊されている部分が存在したが、全体的には比較的安定した土層の堆積状況が確認できた。ここではⅠ調査地の南壁面とⅡ調査地の南壁面を基本の層序とする。

第0層 盛土。層厚0.5~1.6m [上面はT.P.+11.7m前後]。

現代の産業廃棄物（コンクリート等）含む。

第1層 オリーブ黄色シルト混粘土(5Y 6/3)。層厚0.2~0.4m。

第2層 灰オリーブ色シルト混粘土(7.5Y 5/2)。層厚0.1~0.3m。

2' 細砂含む。層厚0.1m。

第3層 青灰色細砂(5BG 5/1)。層厚0.1~0.6m。

第4層 暗青灰色細砂混粘土(5BG 4/1)。層厚0.1~0.2m。

第5層 灰色粘土(N 4/)。層厚0.1~0.2m。

第6層 灰色粗砂混粘土(7.5Y 4/1)。層厚0.1~0.3m。第7層上面で検出した水田面を覆う洪
水等の要因で堆積した土層で、層内からは鎌倉時代の遺物が少量出土した。

第7層 暗青灰色細砂混粘土(10BG 4/1)。層厚0.1~0.2m。上面で平安時代末の水田を検出
した（第1面）。上面の標高はⅡ調査地がT.P.+9.8mを測り、Ⅰ調査地はT.P.+9.6mを
測る。

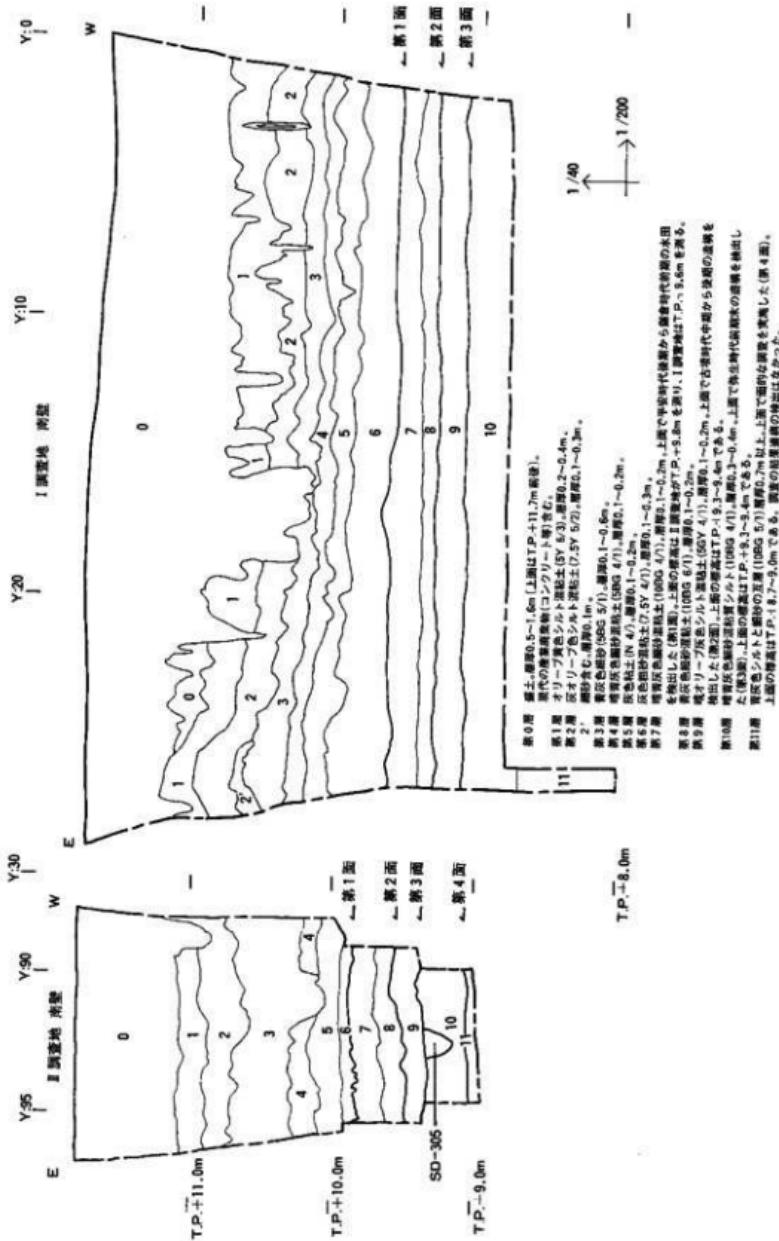
層内からは奈良時代から平安時代の遺物が少量出土した。

第8層 青灰色細砂混粘土(10BG 6/1)。層厚0.1~0.2m。層内からは古墳時代中期から奈良時
代の遺物が少量出土した。

第9層 灰オリーブ灰色シルト混粘土(5GY 4/1)。層厚0.1~0.2m。上面で古墳時代中期から
後期の遺構を検出した（第2面）。上面の標高はT.P.+9.3~T.P.+9.4mである。層内
からは弥生時代前期から中期にかけての遺物が少量出土した。

第10層 暗青灰色細砂混粘質シルト(10BG 4/1)。層厚0.3~0.4m。上面で弥生時代前期末の遺
構を検出した（第3面）。上面の標高はT.P.+9.1~T.P.+9.3mである。

第11層 青灰色シルトと細砂の互層(10BG 5/1)。層厚0.7m以上。上面で面的な調査を実施し
た（第4面）。上面の標高はT.P.+8.7~T.P.+9.0mである。調査の結果遺構の検出は
なかった。また、層内からの遺物の出土はなかった。



第2図 基本層序図

第3節 検出遺構・出土遺物

1) I 調査地の1区～4区

第1面

現地表下2.0m前後に存在する第7層上面（T.P.+9.5m～T.P.+9.6m）で、鎌倉時代初頭に埋没した水田と推定される面を検出した。しかし明確に残る水田の痕跡（足跡や畦畔）はなかった。当調査研究会の第7次調査の結果や、その他周辺の調査結果から水田土層に対応するものと思われる。

第7層を覆う第6層内からは瓦器の椀（1）、土師器の小皿（2）が出土した。また水田土壤である第7層内からは瓦器の椀（3）、土師器の皿（4～8）、須恵器の杯身（9～11）が出土した。

第2面

第1面から0.3mに存在する第9層上面（T.P.+9.3m）で、古墳時代後期に埋没した水田面を検出した。しかし明確に残る水田の痕跡（足跡や畦畔）はなかった。当調査研究会の第7次調査の結果や、その他周辺の調査結果から水田土層に対応するものと思われる。

第9層を覆う第8層内からは弥生土器の鉢（12）、土師器の壺（13・14）、須恵器の杯身（15・16）、杯蓋（17・18）、土師器（19・20）が出土し、第9層内からは弥生土器の壺（21～25）、壺（26・27）、壺用蓋（28）が出土した。

第3面

第2調査面から0.2m下層に存在する第10層上面（T.P.+9.1m）で、弥生時代前期末の溝1条（SD-301）を検出した。

SD-301

2 f・g地区と5・6 I地区で検出した。東西方向に伸びるものである。幅0.1～0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は青黒色粘土で、内部からは弥生時代前期の壺（29）が出土した。

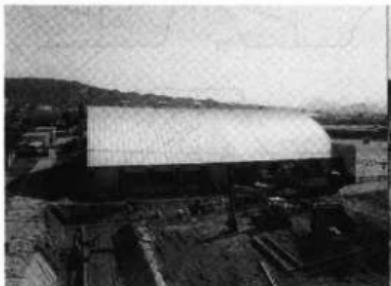
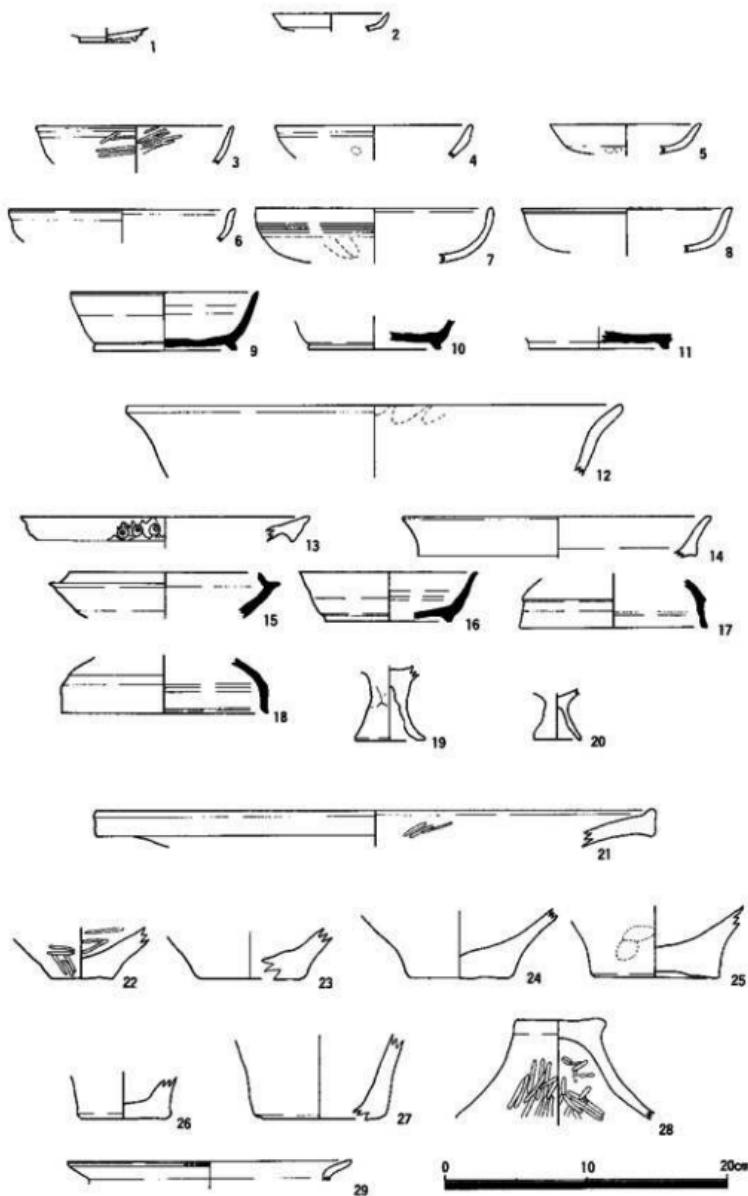


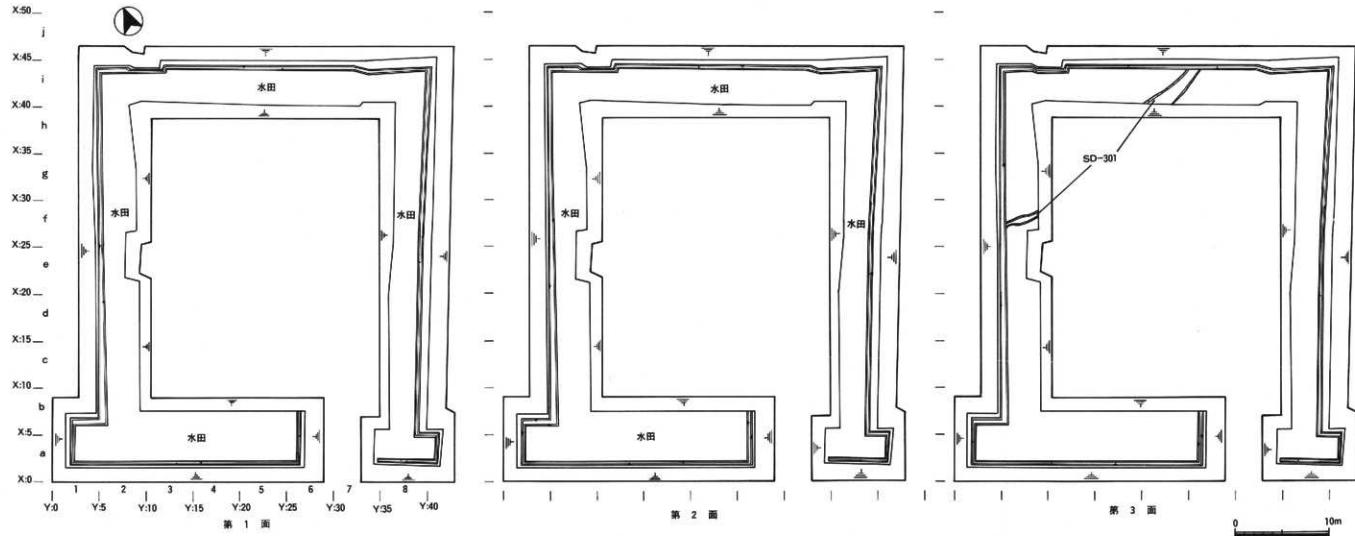
写真1 調査地周辺(西から)



写真2 調査状況(西から)



第3図 I調査地 第6層(1・2) 第7層(3~11) 第8層(12~20)
第9層(21~28) SD-301(29)出土遺物実測図



第4図 I調査地 検出遺構平面図

2) II調査地

第1面

現地表下2.0mに存在する第7層上面 (T.P.+9.7~T.P.+9.8m) で、鎌倉時代初頭に埋没した水田面を検出した。検出した水田101~103は、畦畔4条で区画されていた。水田上面では数多くの足跡を検出した。畦畔101~103は南北方向、畦畔104は東西方向に直線に伸びており、条里に伴うものであると推定できる。

第7層を覆う第6層内からは瓦器の楕 (30) が出土した。

第7層内からは土師器や須恵器などの破片が少量出土した。

時期的には奈良時代以降のものと推定される。

第2面

第1面から0.3m下に存在する第9層上面 (T.P.+9.4m) で、古墳時代中期から後期の小穴4個 (SP-201~SP-204)、溝3条 (SD-201~SD-203) を検出した。

小穴 (S P)

SP-201~SP-204

19 b・c地区で検出した。平面の形状は円形である。径0.15~0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は緑黒色シルト混粘土(10G 2/1)である。SP-201とSP-202内からは土師器の破片が少量出土した。

溝 (S D)

SD-201

18・19 b・c地区で検出した。東西方向に伸びるものである。幅1.5~2.5m、深さ0.15mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。内部からは須恵器の杯身 (34) のほか土師器の破片が少量出土した。

SD-202

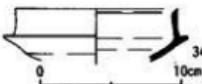
19 b・c地区で検出した。東西方向に伸びるものである。幅0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。内部からは土師器の破片が少量出土した。

SD-203

18・19 a・b地区で検出した。東西方向に伸びるものである。幅1.2~1.7m、深さ0.1mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。内部からは須恵器の杯身のはか土師器の破片が少量出土した。

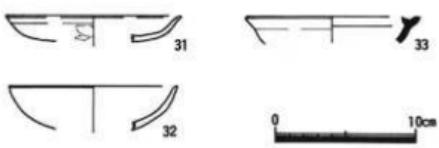


第5図 II調査地 第6層(30)
出土遺物実測図

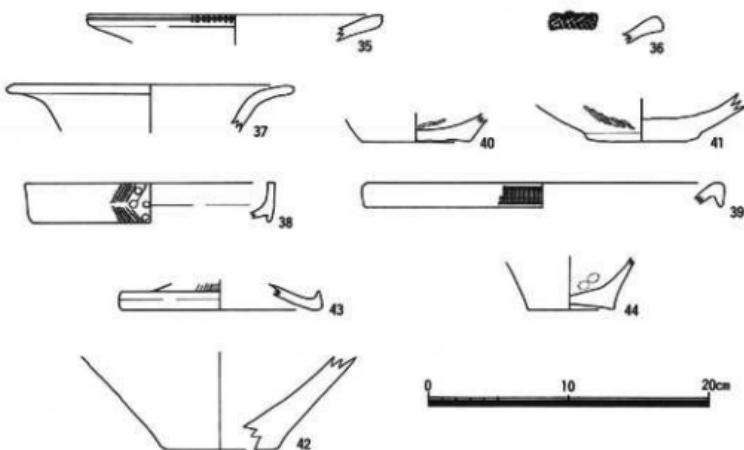


第6図 II調査地 SD-201(34)
出土遺物実測図

第9層を覆う第8層内からは土師器皿（31）、高杯（32）、須恵器杯身（33）が出土し、遺構面である第9層の内からは弥生時代前期末～中期初頭の壺（35～37）、弥生時代中期の壺（38～42）、高杯（43）、壺（44）、石槍（45）、石劍（46）、石錐（47）、石錐（48）、石包丁（49）が出土した。



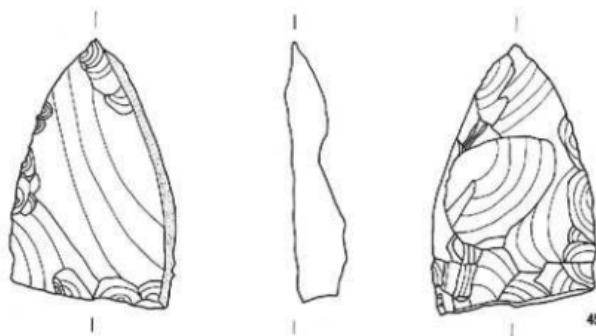
第7図 II調査地 第8層(31～33)出土遺物実測図



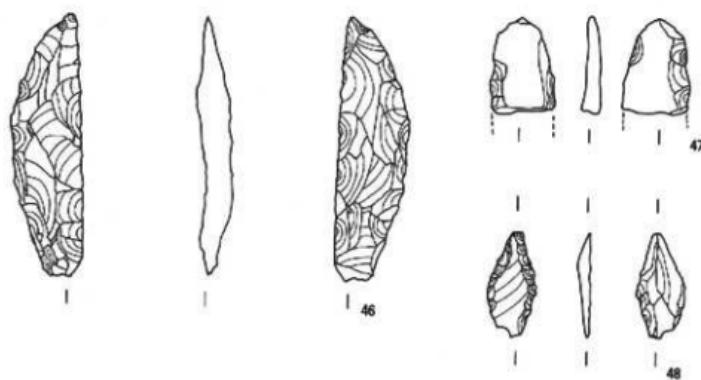
第8図 II調査地 第9層(35～44)出土遺物実測図

第3面

第2面から0.1m下に存在する第10層上面(T.P.+9.3m)で、弥生時代前期末の土坑3基(SK-301～SK-303)、小穴15個(SP-301～SP-315)、溝5条(SD-301～SD-305)を検出した。



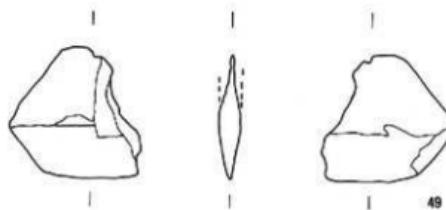
45



46

47

48



49



第9図 II調査地 第9層(45~49)出土遺物実測図

土坑 (SK)

SK-301

19 d地区で検出した。平面の形状は椭円形である。長径1.8m、短径1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は上から黒色粘土炭含む(5Y 2/1)、灰色粘土(5Y 4/1)である。内部からは弥生時代前期末の壺(50)、甕(51)が出土した。この土坑はSD-302が埋まつた後に掘られている。

SK-302

18・19 b地区で検出した。平面の形状は椭円形である。長径1.0m、短径0.9m、深さ0.4mを測る。埋土は上から暗青灰色粘土(SBG 3/1)、灰色粘土(5Y 4/1)である。灰色粘土内からは弥生時代前期末の壺(52)、甕(53~55)、石鎌(56・57)が出土した。

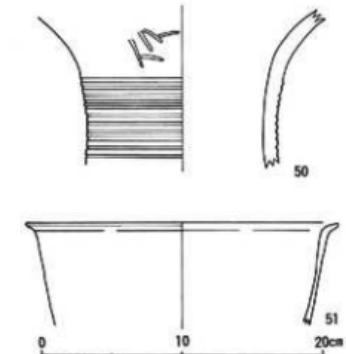
SK-303

19 b地区で検出した。平面の形状は椭円形である。長径1.6m、短径1.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色粘土(5Y 4/1)である。内部からは弥生時代前期末の壺(58~60)、甕(61)が出土した。

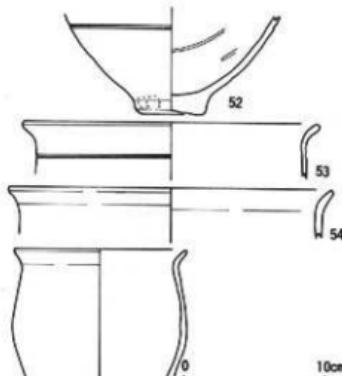
小穴 (SP)

SP-301~SP-315

18・19 b・c地区で検出した。平面の形状は円形と椭円形がある。径0.2~1.2m、深さ0.1~0.15mを測る。埋土は暗灰色粘土(N 3/1)である。この内柱痕が見られたのはSP-301・SP-308・SP-311で、建物が存在していたと考えられる。SP-311内からは弥生時代前期末の壺(62)が出土した。またSP-301・SP-304・SP-305・SP-308・SP-310・SP-314内からも弥



第10図 II調査地 SK-301(50・51)出土遺物実測図



第11図 II調査地 SK-302(52~57)出土遺物実測図

生時代と推定される土器の破片が

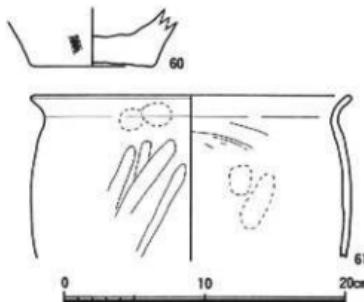
第13図 II調査地 SP-311(62)
出土遺物実測図
少量出土している。



溝 (SD)

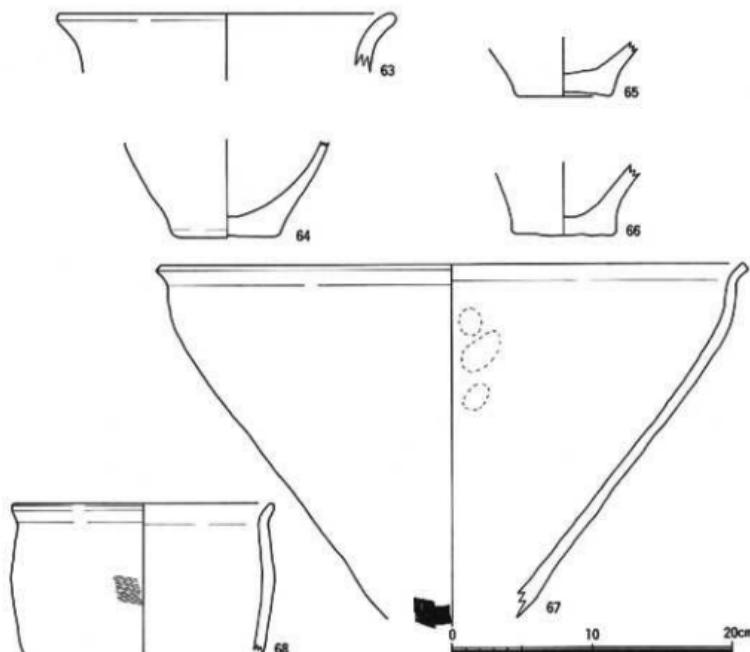
SD-301

18・19 g地区で検出した。東西方向に伸びるものである。幅1.0m、深さ0.1mを測る。
埋土は青黒色シルト混粘土(SBG 2/1)である。
内部からは弥生時代前期の土器の破片が出土した。



SD-302

17～19 c～e地区で検出した。東西方向に第12図 II調査地 SK-303(58～61)出土遺物実測図



第14図 II調査地 SD-302(63～68)出土遺物実測図

伸びるものである。幅7.0~10m、深さ0.4mを測る。埋土は上から青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)、暗青灰色シルト混粘土(5BG 4/1)、青黒色粘土(5G 2/1)、暗緑灰色粘土(10G 3/1)である。青黒色粘土(5G 2/1)からは弥生時代前期と推定される壺(63~66)、鉢(67)、甕(68)が出土した。

SD-303

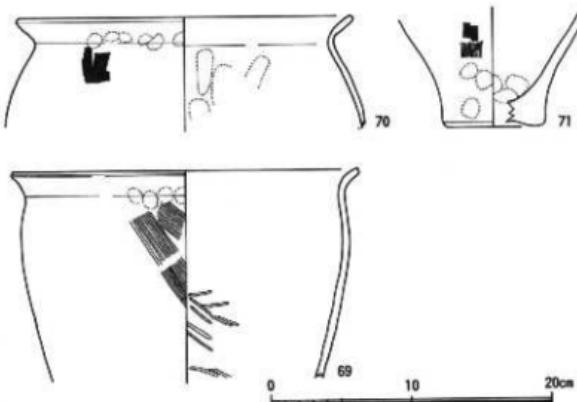
19 b地区で検出した。東西方向に伸びるもので、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-304

18・19 a・b地区

で検出した。東西方向に伸びるもので、西側でSD-305と合流している。

幅0.6~1.8m、深さ0.1~0.15mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。内部からは弥生時代前期末~中期初頭と推定される壺(69~71)の破片が出土した。



第15図 II調査地 SD-304(69~71)出土遺物実測図

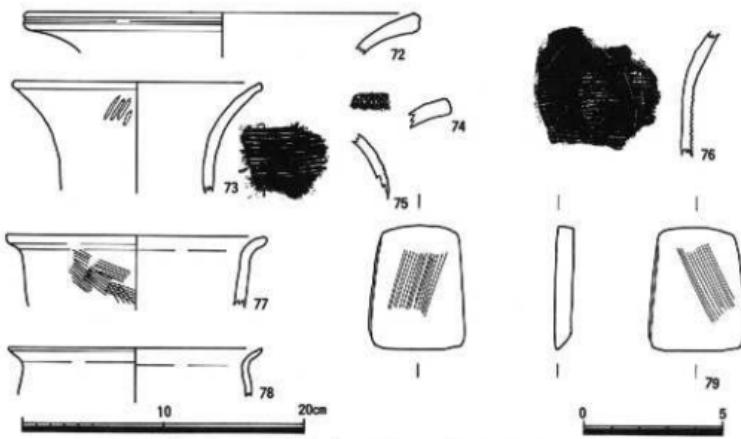
SD-305

19 a地区で検出した。南北方向に伸びるもので、北側でSD-304と合流している。幅0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は青黒色シルト混粘土(5BG 2/1)である。溝内からの遺物の出土はなかった。

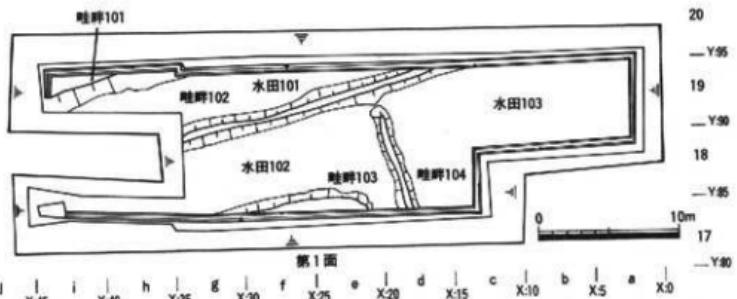
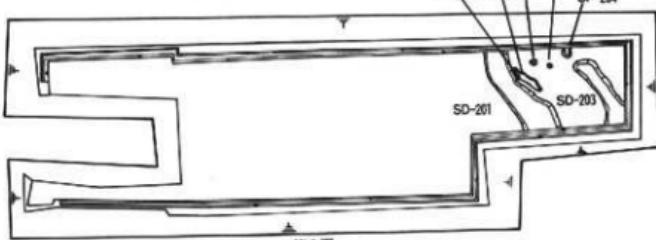
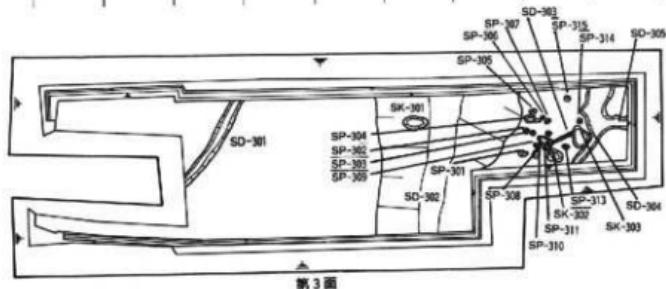
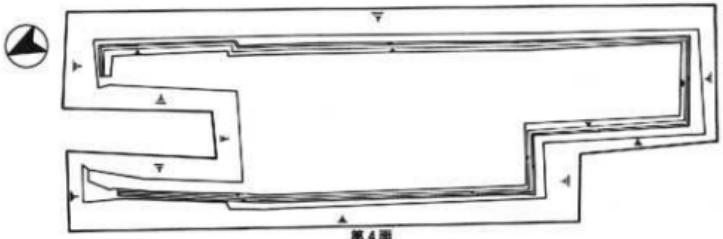
第4面

第3面から0.3m下に存在する第11層上面(T.P.+9.0m)で調査を行なったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

この遺構面を覆う第10層内からは弥生時代前期末~中期初頭と推定される壺(72~76)、甕(77・78)、石斧(79)が出土した。



第16図 II調査地 第10層(72~79)出土遺物実測図



第17図 II調査地 検出造構平面図

第3章 出土遺物観察表

第6層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----|--------------------|------------------|------|-----|----|----|
| 1 | 瓦器 | 高台径 4.0 高台高 0.4 | 高台部ヨコナデ。内面ヘラミガキ。 | 黒色 | 粗 | 良好 | |
| 六 | 碗 | | | | | | |
| 2 | 土師器 | 8.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | 明赤褐色 | 粗 | 良好 | |
| | 皿 | | | | | | |

第7層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|-----------------------------|------------------------------------------------|--------|-----|----|----|
| 3 | 瓦器 鉢 | 14.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。 | 黒色 | 密 | 良好 | |
| 4 | 土師器 皿 | 14.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、外面に指壓圧痕あり。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 5 | 土師器 皿 | 10.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 6 | 土師器 皿 | 16.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 7 | 土師器 皿 | 17.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外面に強いヨコナデによる平行の凹線と指壓圧痕あり。 | 灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 8 | 土師器 皿 | 15.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 9 | 須恵器 杯身 | 13.4 高台径 10.2 高台高 0.5 | 口縁部および体部内外面回転ナデ。 | 灰色 | 密 | 良好 | |
| 六 | 須恵器 杯身 | | | | | | |
| 10 | 須恵器 杯身 | 9.6 高台径 10.0 高台高 0.5 | 体部内外面回転ナデ。 | 灰色 | 粗 | 良好 | |
| 11 | 須恵器 杯身 | | 体部内外面回転ナデ。 | 灰白色 | 粗 | 良好 | |

第8層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|-----------------------------------|--------|-----|----|----|
| 12 | 弥生土器 鉢 | 35.4 | 口縁部内外面ヨコナデ、内面に指頭圧痕あり。 体部内外面ナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |

第8表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備 考 |
|--------------|-----|----------------------------------|------------------------------------------|-----|-----|----|-----|
| 13 | 土師器 | 20.6 | 口縁部外面はヨコナデ。前面には波状文を施し、竹管文を施した2個の円形浮文がつく。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 六 | 壺 | | | | | | |
| 14 | 土師器 | 22.0 | 口縁部外面はヨコナデ。 | 淡褐色 | 粗 | 良好 | |
| | 壺 | | | | | | |
| 15 | 須恵器 | 13.6 | 口縁部および体部内外面同軸ナデ。 | 灰色 | 密 | 良好 | |
| 六 | 杯身 | | | | | | |
| 16 | 須恵器 | 12.8 高台径 9.0 高台高 0.4 | 口縁部および体部内外面同軸ナデ。 | 灰色 | 密 | 良好 | |
| | 杯身 | | | | | | |
| 17 | 須恵器 | 13.4 杯蓋 | 口縁部および天井部内外面同軸ナデ。 | 灰色 | 密 | 良好 | |
| 18 | 須恵器 | 14.8 杯蓋 | 口縁部および天井部内外面同軸ナデ。 | 灰色 | 密 | 良好 | |
| 19 | 土師器 | 14.9 蓋 | 器部内外面ナデ。 | 灰白色 | 粗 | 良好 | |
| 20 | 土師器 | 3.4 蓋径 | 蓋部外面ナデ。 | 灰褐色 | 粗 | 良好 | |

第9表

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備 考 |
|--------------|-----------|----------------|---------------------|------|-----------------|----|-----|
| 21 | 弥生土器 壺 | 40.0 | LII部内面ハラミガキ、外面ヨコナデ。 | 明赤褐色 | 粗 | 良好 | |
| 22 | 弥生土器 壺 | 底径 4.4 | 底部内外面ハラミガキ。 | 墨灰色 | 粗 | 良好 | |
| 23 | 弥生土器 壺 | 底径 8.0 | 底部内外面ナデ。 | 灰青褐色 | 粗 | 良好 | |
| 24 | 弥生土器 壺 | 底径 7.2 | 底部内外面ナデ。 | 棕色 | 粗 | 良好 | |
| 25 | 弥生土器 壺 | 底径 9.2 | 底部内外面ナデ。外面に指痕片状あり。 | 浅青褐色 | 1~2 mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

第9層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調整 | 色調 | 粘土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-------------|----------------|--------------|-------|----|----|----|
| 26 美 | 弥生土器 | 底径 6.0 | 底部内外面ナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 27 美 | 弥生土器 | 底径 9.2 | 底部内外面ナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 28 六 | 弥生土器 壺形蓋 | 大井径 6.2 | 大井部内外面ヘラミガキ。 | 灰白色 | 粗 | 良好 | |

SD-301

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調整 | 色調 | 粘土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------|----------------|------------------------|----|----|----|----|
| 29 六 美 | 弥生土器 | 20.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。里面にキザミ目を施す。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |

II調査地 第6層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調整 | 色調 | 粘土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|----|--------------------|------------------|----|----|----|----|
| 30 六 輪 | 瓦器 | 高台径 4.6 高台高 0.5 | 高台部ヨコナデ。内面ヘラミガキ。 | 黒色 | 密 | 良好 | |

II調査地 第8層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調整 | 色調 | 粘土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----|----------------|-------------------------------|--------|----|----|----|
| 31 直 | 七輪器 | 12.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面に指痕圧痕あり。 | にぶい黄褐色 | 密 | 良好 | |
| 32 直杯 | 土師器 | 22.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 33 杯身 | 須恵器 | 12.4 | 口縁部および体部内外面回転ナデ。 | 灰褐色 | 密 | 良好 | |

II調査地 SD-201

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調整 | 色調 | 粘土 | 焼成 | 備考 |
|---------------|-----|----------------|------------------|-----|----|----|----|
| 34 六 杯身 | 須恵器 | 11.6 | 口縁部および体部内外面回転ナデ。 | 灰褐色 | 密 | 良好 | |

II 調査地 第9層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法式 口径 器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|-------------------------------------|------------------------------------------|--------|----------------|----|----|
| 35 | 弥生土器 壺 | 21.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に1条の沈源文の後撤方向の沈線文を施す。 | 橙色 | 1~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 36 | 弥生土器 壺 | | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に斜格子の沈線文を施す。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 37 | 弥生土器 壺 | 20.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 38 | 弥生土器 壺 | 17.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に2列の列点文を施した後凹形浮文を施す。 | 明赤褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 39 | 弥生土器 壺 | 25.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に無状文を施す。 | 明赤褐色 | 粗 | 良好 | |
| 40 | 弥生土器 壺 | 底径 7.6 | 底部内面ヘラミガキ、外面ナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 41 | 弥生土器 壺 | 底径 8.0 | 底部内面ナデ、外面ヘラミガキ。 | にぶい橙色 | 粗 | 良好 | |
| 42 | 弥生土器 壺 | 底径 8.0 | 底部内外面ナデ。 | 灰褐色 | 粗 | 良好 | |
| 43 | 弥生土器 高杯 | 柄径 14.0 | 桟部内面ナデ、外曲ヘラミガキ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 44 | 弥生土器 壺 | 底径 6.2 | 底部内外面ナデ。内面に指頭圧痕あり。 | 暗赤褐色 | 粗 | 良好 | |
| 45 | | 現存長 9.6 幅 5.9 厚さ 1.8 | A面の側邊は自然崖面を残す。B面は側邊に剥離痕がある。 | 灰色 | | | |
| 46 | | 現存長 9.5 幅 2.4 厚さ 1.2 | 両面共に剥離痕がある。 | 灰色 | | | |
| 47 | | 現存長 3.5 幅 2.4 厚さ 0.7 | 両面の側邊に剥離痕がある。 | 灰色 | | | |
| 48 | | 現存長 3.7 幅 1.7 厚さ 0.4 | 側部分を矢印している。A面の側邊に剥離痕があり、B面は片側の側邊に剥離痕がある。 | 灰色 | | | |
| 49 | | 現存長 4.7 厚さ 0.8 | 両面共に研磨痕がある。 | 緑灰色 | | | |

II 調査地 SK-301

| 遺物番号 回収番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|---------------------------------|------|-----|----|----|
| 50 | 弥生土器 壺 | | 腹部内面ナデ、外周ヘラミガキ。外周に多条沈線(11条)を施す。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 51 | 弥生土器 壺 | 22.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 明赤褐色 | 粗 | 良好 | |

II 調査地 SK-302

| 遺物番号 回収番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------------------|-----------------------------|--------|------------------|----|----|
| 52 | 弥生土器 壺 | 底径 5.2 | 体部内面ヘラミガキ、外周ナデ。沈線文1条施す。 | 灰オリーブ色 | 2~4mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 53 | 弥生土器 壺 | 21.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。沈線文1条施す。 | に赤い黄褐色 | 0.5~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 54 | 弥生土器 壺 | 23.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 灰褐色 | 粗 | 良好 | |
| 55 | 弥生土器 壺 | 12.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 黒褐色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 56 | 石器 | 現存長 3.5 幅 2.0 厚さ 0.6 | 両面の側辺に剥離痕あり。 | 灰色 | | | |
| 57 | 石器 | 現存長 2.8 幅 1.5 厚さ 0.4 | 両面の側辺に剥離痕あり。 | 灰色 | | | |

II 調査地 SK-303

| 遺物番号 回収番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調 整 | 色 調 | 胎 土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|-----------|----------------|-----------------------------------------|--------|------------------|----|----|
| 58 | 弥生土器 壺 | | 体部内面ナデ、外周ヘラミガキ。外周に多条沈線(7条の細線と1条の大線)を施す。 | 黄褐色 | 2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 59 | 弥生土器 壺 | | 体部内外面ナデ。外周に多条沈線(8条)を施し、上下にヘラによる剥離文を施す。 | 褐灰色 | 2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 60 | 弥生土器 壺 | 底径 8.4 | 底部内面ナデ、外周ハケナデ。 | に赤い黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 61 | 弥生土器 壺 | 22.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外周ヘラミガキ。 | に赤い黄褐色 | 0.5~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |

II 調査地 SD-311

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 基高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------|----------------|-----------------------------------|-----|------------------|----|----|
| 62 | 弥生土器 | | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に1条の沈線文の後継方向の沈紋文を施す。 | 明褐色 | 2mm程度の 砂粒を含む。 | 良好 | |
| 九 | 壺 | | | | | | |

II 調査地 SD-302

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 基高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------|----------------|-------------------------------|--------|--------------------|----|----|
| 63 | 弥生土器 | 34.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 九 | 壺 | | | | | | |
| 64 | 弥生土器 | | 底部内外面ヨコナデ。 | オリーブ黃色 | 1~4mm程度の 砂粒を含む。 | 良好 | |
| 九 | 壺 | 底径 7.9 | | | | | |
| 65 | 弥生土器 | | 底部内外面ヨコナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 九 | 壺 | 底径 6.6 | | | | | |
| 66 | 弥生土器 | | 底部内外面ヨコナデ。 | オリーブ黃色 | 粗 | 良好 | |
| 九 | 壺 | 底径 6.8 | | | | | |
| 67 | 弥生土器 | 41.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外側 ハケナデ。 | 明赤褐色 | 1~4mm程度の 砂粒を含む。 | 良好 | |
| 九 | 鉢 | | | | | | |
| 68 | 弥生土器 | 18.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外側 ハケナデ。 | 黒褐色 | 粗 | 良好 | |
| 九 | 豆 | | | | | | |

II 調査地 SD-304

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 基高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------|----------------|----------------------------------|-------|--------------------------|----|----|
| 69 | 弥生土器 | 23.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハラミガキ、 外側ハケナデ。 | 黒褐色 | 粗 | 良好 | |
| 一〇 | 壺 | | | | | | |
| 70 | 弥生土器 | | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外側 ハケナデ。 | 灰青褐色 | 0.5~1mm 程度の砂粒 を含む。 | 良好 | |
| 一〇 | 壺 | 底径 7.4 | | | | | |
| 71 | 弥生土器 | 23.6 | 底部内面ナデ。外側ハケナデ。 | にぶい褐色 | 1~2mm程度の 砂粒を含む。 | 良好 | |
| | 壺 | | | | | | |

II 調査地 第10層

| 遺物番号 図版番号 | 器種 | 法量 口径 器高 | 調査者 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|----------------|-----------------------------|---------------|----------------|----|----|
| 72 一〇 | 弥生土器 甕 | 27.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。端面に1条の沈線文を施す。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 73 一〇 | 弥生土器 甕 | 17.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。颈部内面ナデ、外面ハラミガキ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 74 一〇 | 弥生土器 甕 | | 口縁部内外面ヨコナデ。端面にキザミ目を3列施す。 | 褐灰色 | 1~2mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 75 一〇 | 弥生土器 甕 | | 体部内外面ナデ。外面に多条沈線文(10条+e)を施す。 | 黄褐色 | 1mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 76 一〇 | 弥生土器 甕 | | 颈部内外面ナデ。外面に多条沈線文(17条+e)を施す。 | 黄褐色 | 2~3mm程度の砂粒を含む。 | 良好 | |
| 77 一〇 | 弥生土器 甕 | 18.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハラミナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 78 一〇 | 弥生土器 甕 | 18.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 79 一〇 | 偏平片刃 石斧 | 現存長 幅 厚さ | 4.4 3.4 0.6 | 両面と側面は研磨度がある。 | 綠灰色 | | |

第4章 まとめ

今回の調査の結果、弥生時代前期末と古墳時代中期から後期と平安時代末期から鎌倉時代初頭の3時期の遺構を検出した。

平安時代後期から鎌倉時代初頭

水田跡をI調査地とII調査地で検出した。特にII調査地では条里施行にともなう畦畔を検出しておらず、水田面には人間および動物の足跡が多数残っていた。当時この地を耕作しており、この水田は鎌倉時代初頭頃の洪水による堆積土（砂層）によって埋没したことがわかった。同時期の水田は北東約250mの（財）大阪府埋蔵文化財協会の調査地でも検出しておらず、少なくとも当調査地より北東部一帯には生産域（水田）が広がっていることが判明した。

古墳時代中期から後期

I調査地の全域とII調査地の北側では、水田土と推定される粘土層が広がっていることがわかった。しかしこの土層は耕作されている痕跡を見あたらないことから未耕地であったと思われる。また、II調査地の南側では古墳時代中期の集落跡が検出された。沸や小穴が数個には少ないが検出されたことにより、今回の調査地より南には当時の集落が存在していたことが明らかになった。

弥生時代前期末

I調査地の2区と3区で溝1条を検出した。またII調査地では、土坑・小穴・溝を検出した。遺構内からは畿内第一様式新段階に位置付けられる河内I-4様式の遺物が出土している。第5次調査（③）^{註1}でも同時期の遺物が出土していることから、同時期の集落が当調査地まで広がっていることが確認でき、東西約400mが同時代の集落域であったと推定される。II調査地では、調査地の北側には遺構の検出がなく、溝を界に、南側で多く遺構を検出したことから、同時代の集落の北東端を界とする溝の可能性が考えられる。

註1 （財）大阪府埋蔵文化財協会 志紀遺跡発掘調査 現地説明会資料-38 平成6年11月

註2 寺沢熊・森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』「近畿編I」1989年6月15日 図書出版 木耳社

註3 本書掲載、「I 出井中遺跡（第5次調査）」

図 版



I調査地 1区 第1面全景（西から）



I調査地 2区 第1面全景（北から）



I調査地 1区 第2面全景（西から）



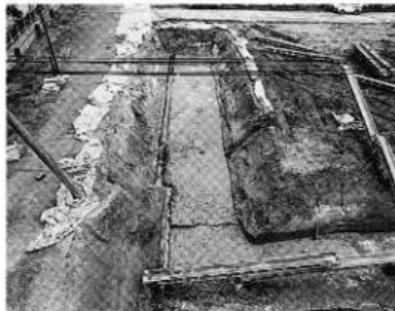
I調査地 2区 第2面全景（北から）



I調査地 1区 第3面全景（西から）



I調査地 2区 第3面全景（北から）



I 調査地 3区 第1面全景（西から）



I 調査地 4区 第1面全景（北から）



I 調査地 3区 第2面全景（西から）



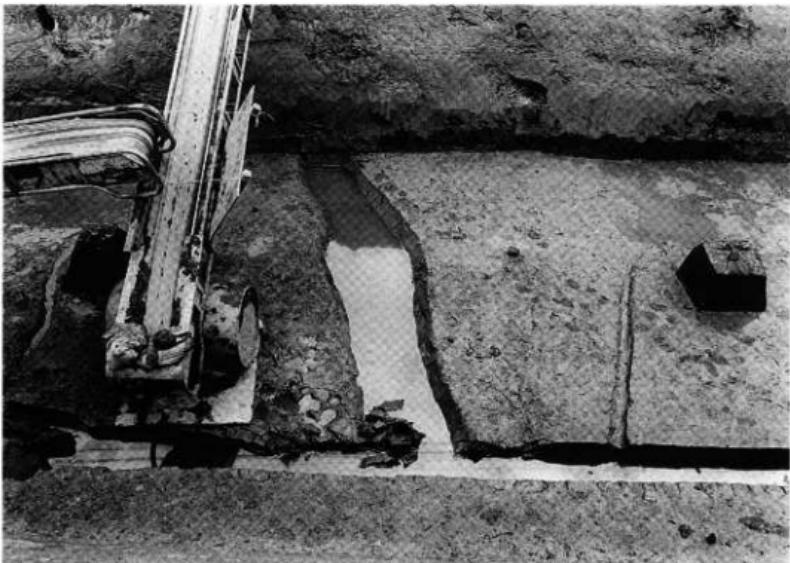
I 調査地 4区 第2面全景（北から）



I 調査地 3区 第3面全景（西から）



I 調査地 4区 第3面全景（北から）



I 調査地 2 区 SD-301 検出状況（西から）



I 調査地 3 区 SD-301 検出状況（北から）



II調査地 第1面全景（北から）



II調査地 第3面全景（北から）



II調査地 第2面全景（北から）



II調査地 第3面全景（南から）



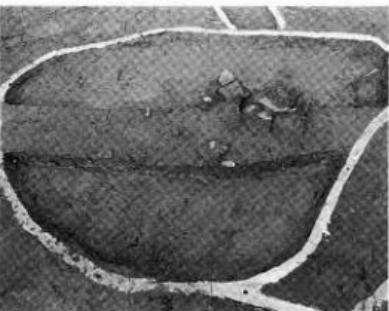
II調査地 第2面 遺構検出状況（北から）



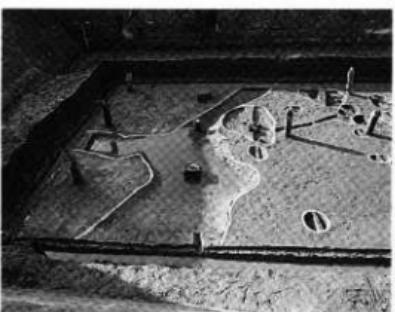
II調査地 SD-302 検出状況（東から）



II調査地 SP-301～SP-315 検出状況（東から）



II調査地 SK-303 検出状況（南から）



II調査地 SD-304・SD-305 検出状況（東から）



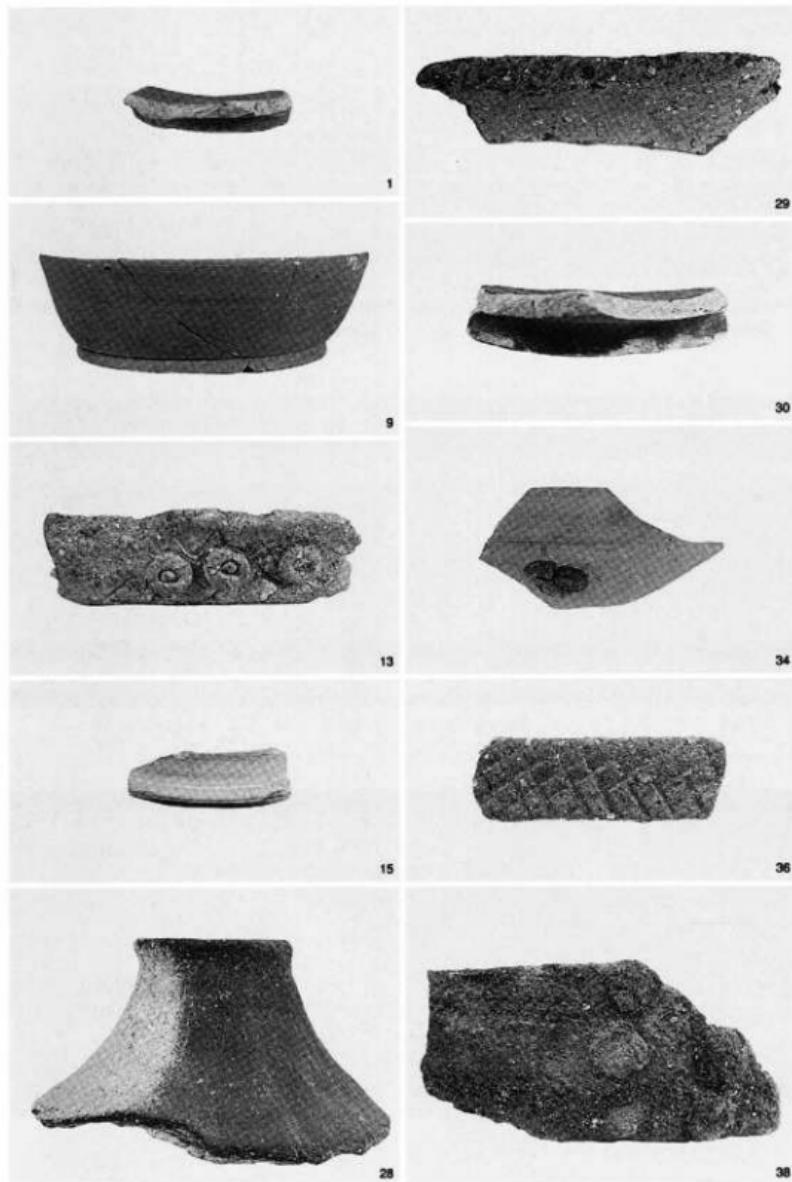
II調査地 SD-302 遺物出土状況（南から）



II調査地 SK-302 遺物出土状況（南から）

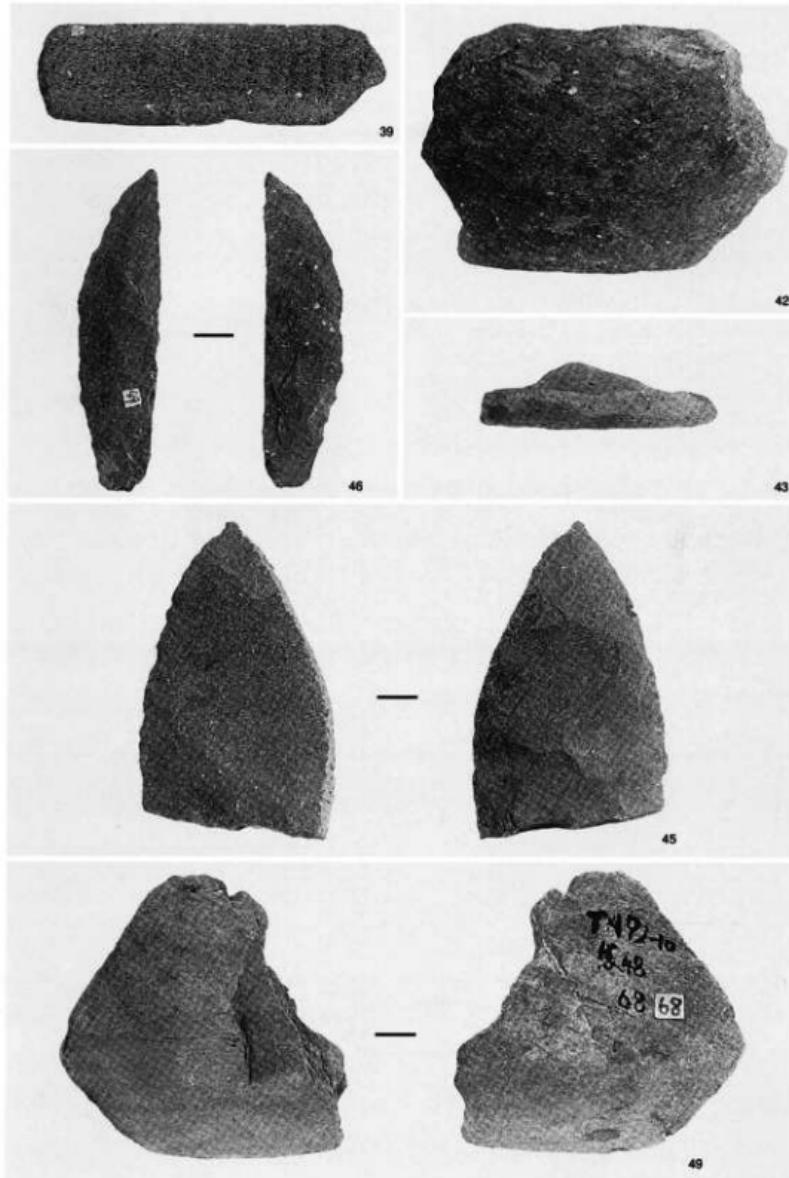


II調査地 第4面全景（北から）

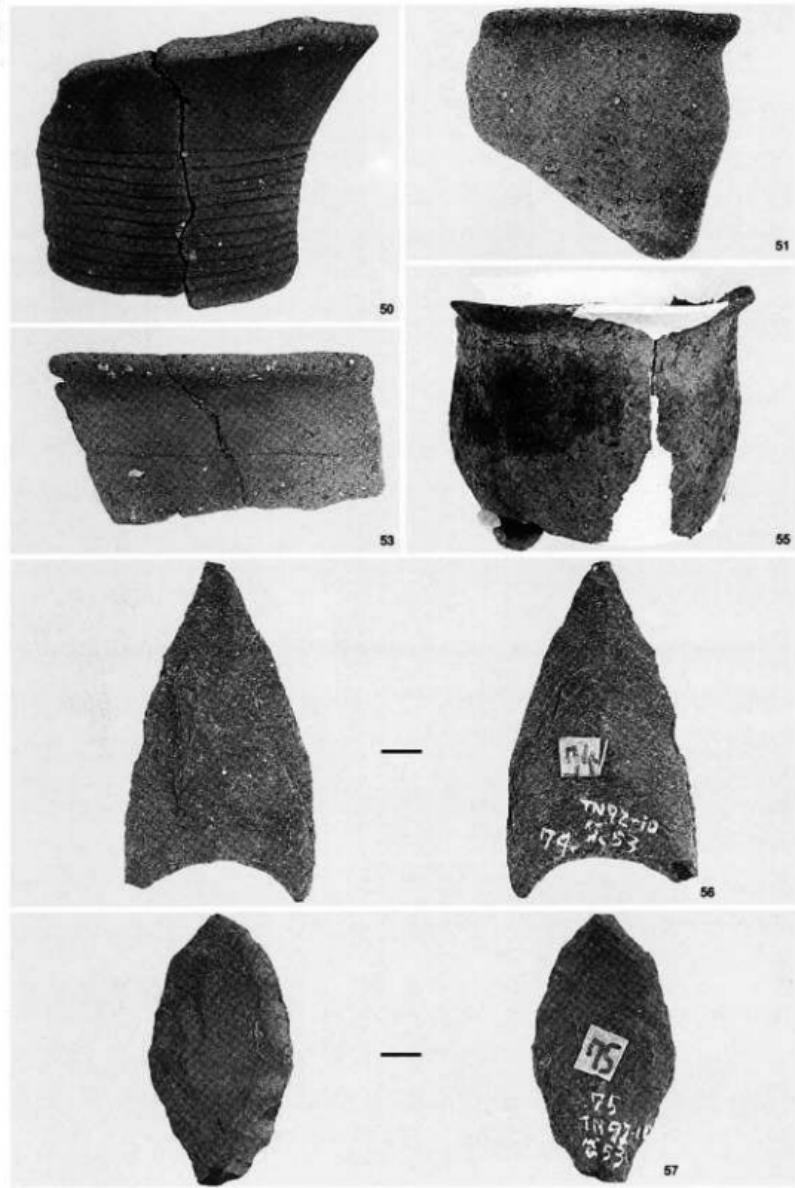


I 調査地 第6層(1) 第7層(9) 第8層(13・15) 第9層(28) SD-301(29)

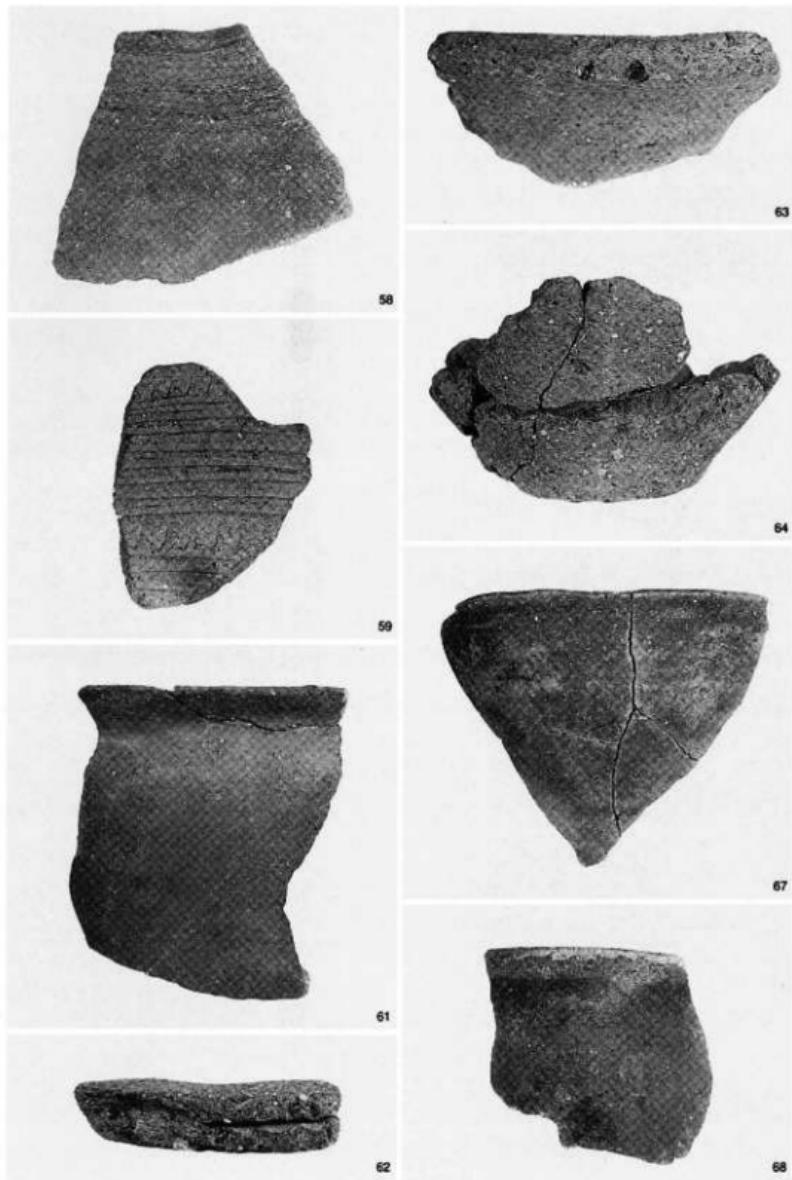
II 調査地 第6層(30) SD-201(34) 第9層(36・38) 出土狀況



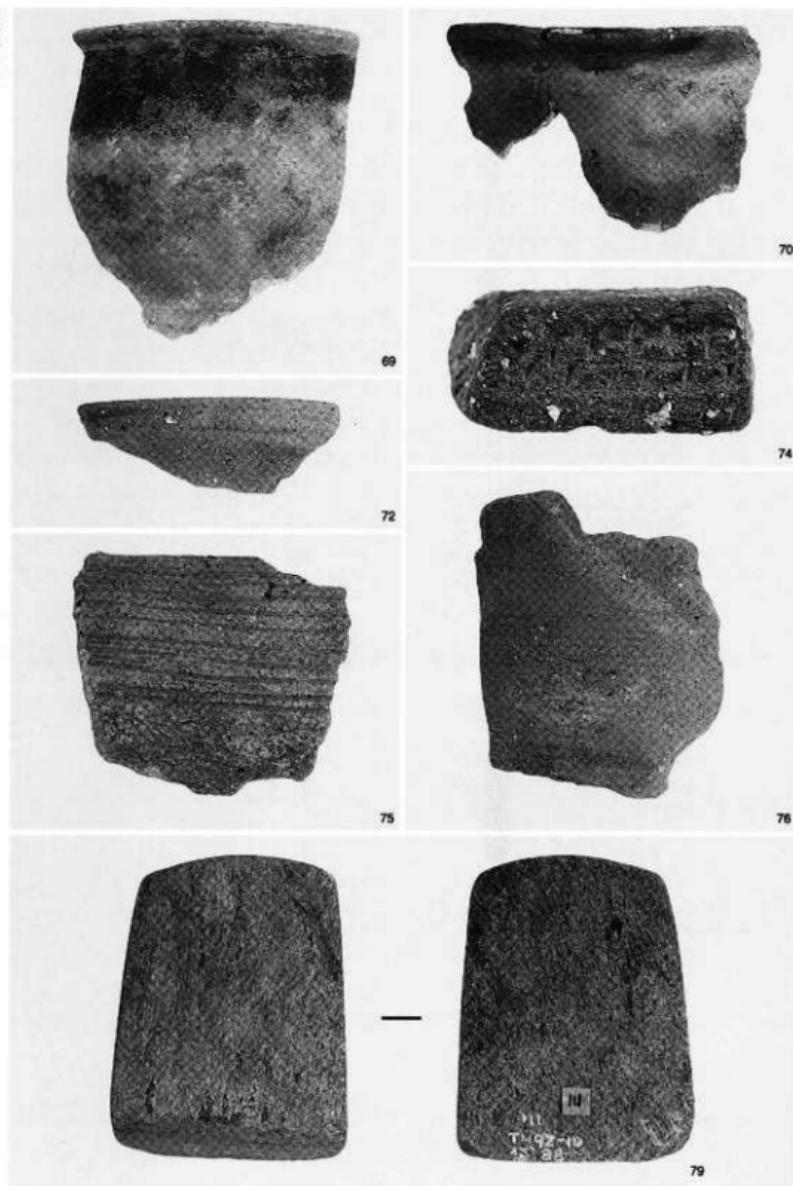
II調査地 第9層(39・42・43・45・46・49)出土遺物



II調査地 SK-301 (50・51) SK-302 (53・55~57) 出土遺物



II調査地 SK-303 (58・59・61) SP-311 (62) SD-302 (63・64・67・68) 出土遺物



II調査地 SD-304 (69・70) 第10層 (72・74~76・79) 出土遺物

報告書抄録

| ふりがな | たいなかいせき でいたんはうじん やおしんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく | | | | | | |
|-------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|-------------|---------|
| 書名 | 田井中遺跡 考古法人 八尾市文化財調査研究会報告書 | | | | | | |
| 調査名 | I 田井中遺跡(第5次調査) II 田井中遺跡(第7次調査) III 田井中遺跡(第10次調査) | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | (附)八尾市文化財調査研究会報告 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 46 | | | | | | |
| 著者名 | 西村企比 | | | | | | |
| 著者機関 | 財團法人 八尾市文化財調査研究会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒581 大阪府八尾市守山町4丁目4番16 TEL 0729-94-4700 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 1995年3月 | | | | | | |
| ふりがな 所蔵遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 測定距離 | (m) 測定基點 | 調査原因 |
| 田井中遺跡 (第5次調査) | 大阪府八尾市空港1丁目81 | 27212 | 34度 35分 46秒 | 135度 36分 25秒 | 昭和62年10月19日～ 12月5日 | 216 | 自衛隊施設建設 |
| 田井中遺跡 (第7次調査) | 大阪府八尾市空港1丁目81 | 27212 | 34度 35分 44秒 | 135度 36分 28秒 | 昭和63年5月30日～ 6月16日 | 25 | 自衛隊施設建設 |
| 田井中遺跡 (第10次調査) | 大阪府八尾市空港1丁目81 | 27212 | 34度 35分 44秒 | 135度 36分 24秒 | 平成4年9月28日～ 12月22日 | 1003 | 自衛隊施設建設 |
| 所蔵遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 田井中遺跡 第5次 | 集落遺跡 集落遺跡 集落遺跡 | 弥生時代後期 弥生時代中期 弥生時代後期 | 土坑 十枚 漆 上坑 | 赤朱土器 赤朱土器 赤朱土器 | | | |
| 田井中遺跡 第7次 | 集落遺跡 集落遺跡 | 弥生時代前期 弥生時代前期(有茎式窓) | 漆 土坑 | 赤朱土器 一輪器(有茎式窓) | | | |
| 田井中遺跡 第10次 | 水田遺跡 水田遺跡 集落遺跡 | 平安時代後期～鎌倉時代 古墳時代中期 弥生時代初期～中期 | 水坑 小穴 漆 上坑 小穴 漆 | 瓦器 鏡 赤朱土器 | | | |

田井中遺跡

財團法人 八尾市文化財調査研究会報告46

I 田井中遺跡（第5次調査）

II 田井中遺跡（第7次調査）

III 出井中遺跡（第10次調査）

発行 1995年3月

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市青山町4丁目4番18号

TEL0729-94-4700

印刷 鮎近畿印刷センター

表紙 レザック66 <260kg>

本文 マットアート<90kg>

見返し 上質 <90kg>

色トピラ 色上質 厚口

